

## 障害者の移動支援施策再構築に係る市民意見募集実施結果について

### 1 趣旨

障害者の移動支援施策再構築については、9月14日開催の本委員会で、市民意見募集状況について単純集計速報値および意見の傾向についてご報告をさせていただきました。本日は、市民意見募集の集計分析結果についてご報告します。

### 2 実施状況

#### (1) 目的

障害者に対する移動支援施策の再構築案について、障害者手帳所持者へのダイレクトメール、一般市民意見公募、一般市民や障害者団体に対する説明会等で周知し、意見募集の結果を集計・分析し、見直し案の確定の参考とする。

#### (2) 意見募集期間

平成24年6月11日(月)～8月17日(金)

#### (3) 市民意見募集用紙の配布方法

- ア 市内の障害者手帳所持者約14万人のうち、約1万人の方への意見募集用紙のダイレクトメール送付
- イ 区役所、市民情報センター、行政サービスコーナー、市内主要駅等での意見募集用紙の配布
- ウ 7月中に市内5か所で開催した市民説明会での配布
- エ 障害者団体等に出向いて説明を行った際に配布
- オ 本市ホームページに意見募集用紙を掲載し、ご覧になった方からのEメール等での回答受付

#### (4) 市民意見募集用紙の配布数

障害者手帳所持者へダイレクトメール10,000部、一般市民意見公募等15,000部

#### (5) 市民意見募集回答ハガキ等の返信件数

4,140件

※9月14日開催の本委員会でのご報告(単純集計速報値)ではハガキ、ファックス等での回答数を4,085件と報告しましたが、8月24日時点で郵便局に到着したハガキについては期限内に投函したとみなし、分析対象に加えた結果、件数が55件増加しています。

### 3 集計・分析結果

#### (1) 分析方法

- ア 回答ハガキの設問に対する回答状況単純集計
- イ 設問に対する回答と回答された方の属性等によるクロス集計
- ウ 自由意見欄記載内容等の項目別分類(69項目)
- エ 制度利用者と該当する制度についての自由意見欄記載内容のクロス集計

#### (2) 分析結果

別添報告書および報告書概要版のとおり

#### 4 意見募集結果を踏まえた今後のスケジュール（案）

24年12月 第4回定例会に福祉パス条例案上程

25年2月 第1回定例会に事業見直し内容を反映した25年度予算案上程

同 3月 予算案議決、制度見直し周知

同 4月 ガイドヘルプ・ガイドボランティア新制度実施

同 10月 福祉パス・福祉タクシー券新制度実施

# 参 考

## ■見直し案の概要

ニーズ・課題		見直し概要			
		サービス拡充		コスト削減・歳入確保	
<p>現行の様々な移動支援施策をより使いやすく、必要な人に必要な支援が適切に行われるよう制度の再構築を行います。</p>		<p>既存の移動支援施策全体の見直し・転換による施策の充実</p>	<p>既存の移動支援施策の対象とならない方(新たな対象)への施策導入</p>	<p>移動支援施策全体として市費負担増の抑制、持続可能で安定的な制度の構築</p>	
福祉バス 交付事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽度の知的障害者B2は対象外となっている。</li> <li>・対象者の増加に伴う事業費の増加が著しい。</li> <li>・福祉バスの利用頻度に関わらず交通事業者への市費負担金は同じ。</li> </ul>	→	<p>【交付対象要件の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽度の知的障害者B2へ対象者を拡大します。(対象者：約7900人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用頻度の低い方にご遠慮いただくための一律定額(3200円)の利用者負担金の導入します。</li> <li>・事業者への市負担金積算方法の見直します。(実施済み：H24～26の間バス事業の前年度負担金額から0.7億円減額)</li> </ul>	
タクシー 券交付事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月毎の利用枚数制限があり利用しづらい。</li> <li>・精神障害者手帳所持者は対象外となっている。</li> <li>・施設のあり方が変化している中で、施設入所者が対象外となっている。</li> <li>・平成17年改正の経過措置により、不公平が発生している。</li> </ul>	→	<p>【制限の緩和】</p> <p>月ごとの利用制限を廃止し、1回7枚までを、いつでも利用できるようにします。</p>	<p>【交付対象要件の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者手帳1級所持者へ対象者を拡大します。(対象者：約2700人)</li> <li>・施設入所者を交付対象とします。(対象者：約700人)</li> </ul>	<p>【経過措置の廃止】</p> <p>手帳取得時の年齢制限導入(H17.4)以前からの「経過措置者」への交付を停止します。(対象者：約3000人)</p>
ガイドヘルパー・ ガイドボランティア事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両制度の違いがわかりづらく役割があいまいで、利用しづらい。</li> <li>・障害者本人のエンパワーメントを高めるための仕組みがない。</li> <li>・人材が不足している。</li> </ul>	→	<p>【ガイドヘルパー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学等への利用範囲を拡大し、利便性を高めます。</li> <li>・障害者本人が自立して移動できる力を高めるための支援制度を創設します。</li> <li>・ヘルパー人材確保育成策を継続実施します。</li> </ul>	<p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・余暇への利用範囲を拡大し、ガイドヘルプを補う施策として位置づけます。</li> <li>・手帳要件を緩和し、軽度者へも対象範囲を拡大します。</li> <li>・ボランティア確保育成策を継続実施します。</li> </ul>	<p>【ガイドヘルパー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支給決定基準を見直します。(48H→原則30H)</li> <li>・新制度にあわせ、報酬体系を見直します。</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金を見直します。(1900～500円→一律500円)</li> </ul>

(上記事業 H24 予算規模)

	H24 予算額(千円)	対象者数(人)	1人当たり事業費(円)	備 考
福祉バス交付事業 (市単事業)	2,684,903	49,535 (23.9末 交付数)	54,202	タクシー券受給者は福祉バスを選択可能(ただし、70歳以上の方は敬老バスを選択可能)。
タクシー券交付事業 (市単事業)	371,647	20,993 (24年度末 予測数)	17,703	
ガイドヘルパー	1,272,197 (市費 397,243)	7,052 (23.10末 支給決定者数)	180,402 (市費分 56,330)	ガイドヘルパーとガイドボランティアは併用可能。
ガイドボランティア	60,464 (市費 18,744)	826 (23.10末 利用登録者数)	73,200 (市費分 22,692)	

## 「障害者の外出支援制度見直し案」に関する市民意見募集報告書（概要版）

### ～市民意見募集の概要～

1. 目的：障害者に対する移動支援施策の再構築案について、障害者手帳所持者へのダイレクトメール、一般市民意見公募、一般市民や障害者団体に対する説明会等を行い、その結果を集計・分析する。
2. 意見募集期間：平成 24 年 6 月 11 日(月)～8 月 17 日(金)
3. 市民意見募集用紙の配布方法
  - (1) 障害者手帳所持者のうち、約 1 万人の方への意見募集用紙のダイレクトメール送付
  - (2) 区役所、市民情報センター、行政サービスコーナー、市内主要駅等での意見募集用紙の配布
  - (3) 市内 5 か所で開催した市民説明会での配布
  - (4) 障害者団体説明会での配布
  - (5) 横浜市ホームページ掲載版を見ての E メール等での回答
4. 配布数：障害者手帳所持者へのダイレクトメール 10,000 部、一般市民意見公募等 15,000 部
5. 市民意見募集回答ハガキ等による回収件数：4,140 件

### ～市民意見募集の結果～

#### 1. 回答者の属性

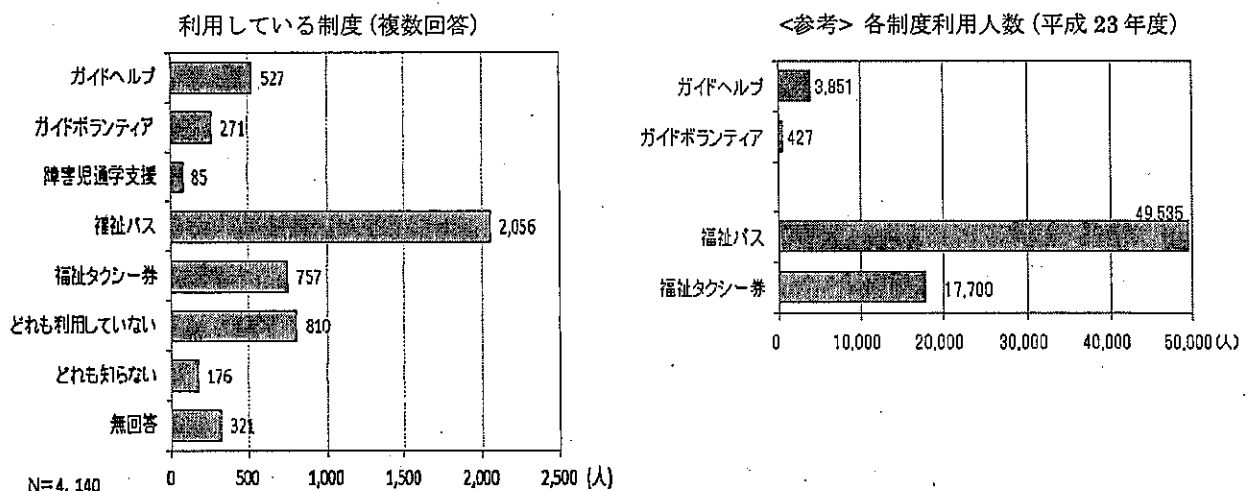
回答した方は、「障害者本人」が 50.2%、「障害者の家族」が 37.6%、「その他」が 3.8%であった。

障害者本人の年齢は、「70 代以上」が 25.4%と最も多く、次いで「60 代」が 15.5%、「未就学児」が 1.5%と最も少なく、他の年齢は 8.7～12%であった。

複数回答である障害者本人の障害者手帳と等級は、「身体障害者手帳 1 級」が最も多い。平成 23 年度障害者手帳交付者数と比較すると、愛の手帳所持者からの回答が多く寄せられている。

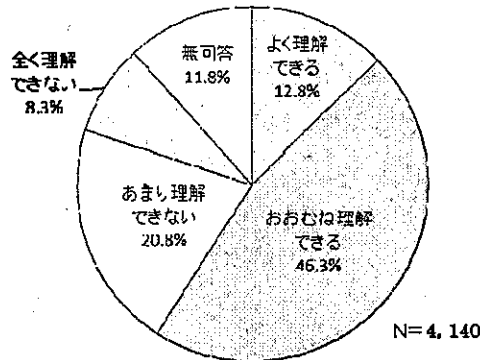
#### 2. 利用している制度（複数回答）

利用している制度は、「福祉パス」が 2,056 人で全体の約半数を占め最も多いが、各制度の平成 23 年度利用人数と比較すると、「ガイドヘルプ」「ガイドボランティア」利用者からの回答が多い。特に「ガイドボランティア」は、制度利用者の 63%にあたる 271 人から回答が寄せられている。

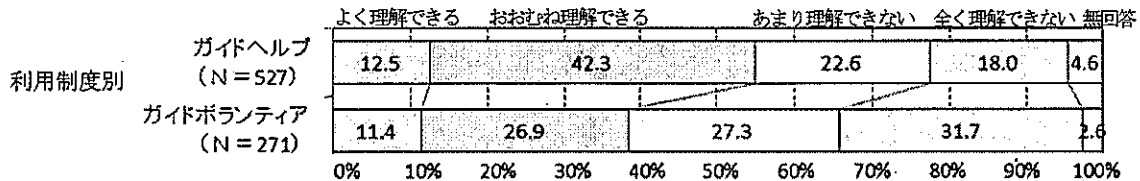


### 3. ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについてどう思うか

ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについては、「よく理解できる」(12.8%)と「おおむね理解できる」(46.3%)をあわせた「理解できる」が59.1%であった。



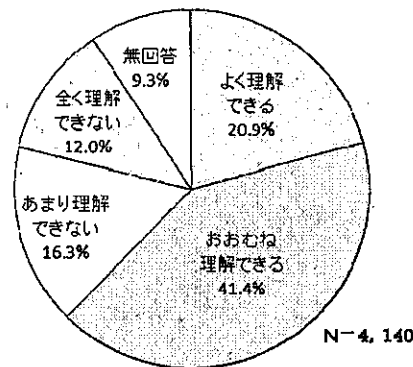
ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて、利用している制度別にみると、その他の制度利用者については、いずれも「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて半数以上を占めているが、「ガイドボランティア」利用者については「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて38.3%と、突出して低い結果を示した。



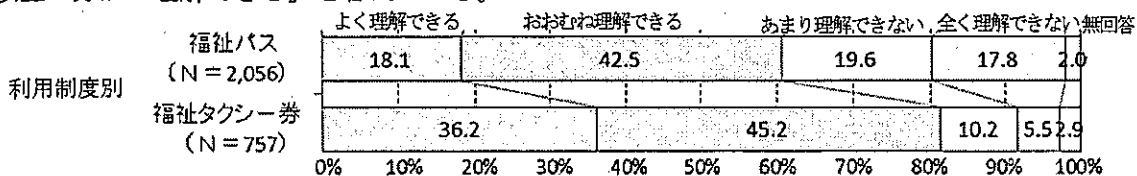
ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて、障害者本人の障害者手帳等級別にみると、「精神障害者保健福祉手帳2級」所持者については「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて47.5%と、「理解できる」が半数を割っている。

### 4. 福祉パス、福祉タクシー券の見直しについてどう思うか

福祉パス、福祉タクシー券の見直しについては、「よく理解できる」(20.9%)と「おおむね理解できる」(41.4%)をあわせた「理解できる」が62.3%であった。



福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて利用している制度別にみると、福祉タクシー券利用者では「よく理解できる」(36.2%)と「おおむね理解できる」(45.2%)をあわせた「理解できる」が81.4%と最も多く、月毎の利用枚数制限撤廃が支持されていることが伺える。福祉パス利用者でも60.6%と、半数以上の方が「理解できる」と答えている。



福祉バス、福祉タクシー券の見直しについて障害者本人の障害者手帳等級別にみると、「愛の手帳B2」では「よく理解できる」(30.2%)と「おおむね理解できる」(49.3%)、ともに多くなっている。

「精神障害者保健福祉手帳」は一般的に「よく理解できる」、「おおむね理解できる」が少なく、特に「精神障害者保健福祉手帳2級」と「精神障害者保健福祉手帳3級」は「理解できる」が半数を割っている。

## 5. 制度全体の見直しについてどう思うか

制度全体の見直しについては、「よく理解できる」(18.9%)と「おおむね理解できる」(44.6%)をあわせた「理解できる」が63.5%であった。

制度全体の見直しについて利用している制度別にみると、福祉タクシー券と福祉バス利用者は「理解できる」と「おおむね理解できる」の割合が高くなっているが、ガイドヘルプ利用者は回答者全体を下回り、ガイドボランティア利用者は「あまり理解できない」と「全く理解できない」の割合が半数を超えている。

制度全体の見直しについて障害者本人の障害者手帳等級別にみると、「精神障害者保健福祉手帳2級」と「精神障害者保健福祉手帳3級」所持者は「よく理解できる」、「おおむね理解できる」が少なくなっている。

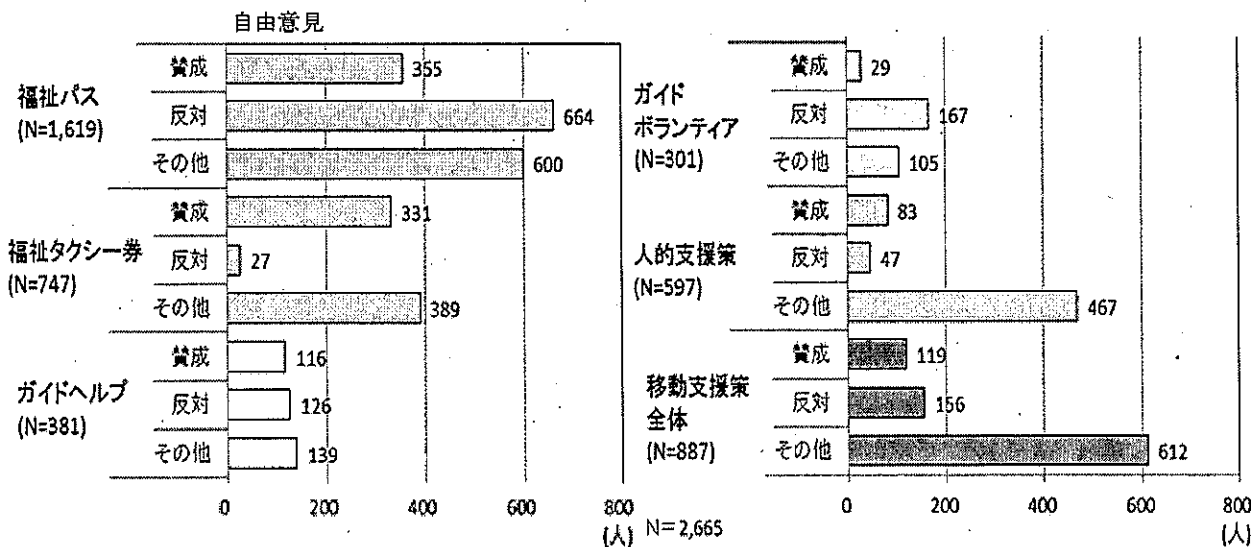
## 6. 自由意見

自由意見は回答者全体の64.4%に当たる2,665名の方から「賛成」、「反対」、「その他」と様々な回答があった。

回答内容を「福祉バス」、「福祉タクシー券」、「ガイドヘルプ」、「ガイドボランティア」、「人的支援策」、「移動支援策全体」のそれぞれ「賛成」、「反対」、「その他」に分類し、さらに69項目の小分類に整理し回答者数を算出した。

「福祉バス」、「ガイドヘルプ」、「ガイドボランティア」は、「反対」が「賛成」を上回り、「福祉タクシー券」は、「賛成」が「反対」を上回った。

「福祉バス」の「その他」意見は、「感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。」といった意見が多く、「福祉タクシー券」の「その他」意見は、「ガソリン代の補助がほしい」が多くなっている。「人的支援策」と「移動支援策全体」の「その他」意見は、多種多様な意見となっている。



## 7. 制度利用者別各制度に関する自由意見内訳

### (1) ガイドヘルプ利用者によるガイドヘルプの見直しに関する自由意見 (185 件)

見直しに「反対」が 41.6%と最も多く、「基準時間 30 時間に反対」が全体の 40.5%を占めている。

「賛成」は 20.5%で、「通学・通所への拡大賛成」が全体の 17.8%となっている。

「その他」は 37.8%で、「人手が足りない・ヘルパー増加を望む」が 11.4%と最も多く、次いで「現状制度への不満・意見」が 4.3%となっている。

### (2) ガイドボランティア利用者によるガイドボランティアの見直しに関する自由意見 (86 件)

見直しに「反対」が 76.7%と最も多く、「奨励金の引き下げに反対」が全体の 62.8%を占めている。

「賛成」は 2.3%で、すべて「対象者拡大賛成」であった。

「その他」は 20.9%で、「ボランティアを増やして欲しい」と「ボランティアの質の向上」が同率で 4.7%と最も多い。ただし、福祉パス・タクシー券・ガイドヘルプに比べて自由意見の件数が少ない為、1 件あたりの割合への影響は大きくなっている。

### (3) 福祉パス利用者による福祉パスの見直しに関する自由意見 (1,071 件)

見直しに「反対」が 45.2%と最も多く、「有料化反対。負担は困る。現状維持で。無料のままがいい。」が全体の 33.7%を占めている。

「賛成」は 18.2%で、「負担は導入すべき」が 8.3%、「負担は理解できる。仕方ないと思う。やむをえない。」が 4.9%であった。

「その他」は 36.6%で、「感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。」が 13.9%と、非常に多くなっている。

福祉パス利用者で福祉パスの反対意見を記入している方の 25.4%は見直しについて理解できると答えており、見直しについて理解はできるものの反対であるという意見を示している。なお、福祉パスの賛成意見を記入している方の 81.1%は見直しに理解できると回答している。

### (4) 福祉タクシー券利用者による福祉タクシー券の見直しに関する自由意見 (367 件)

見直しに「賛成」が 63.2%と最も多く、「タクシー月制限撤廃賛成」が全体の 59.9%を占めており、「反対」は 1.4%とわずかであった。

「その他」は 35.4%で、「ガソリン代の補助がほしい」が 10.4%と最も多く、次いで「感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。」が 5.4%、「助成費の拡大要望」が 5.2%となっている。

～市民説明会の結果～

1. 実施会場、参加者等

	開催日	会場	参加者	内発言者
第1回	7月12日(木)	横浜ラポール	145名	13名
第2回	7月17日(火)	ウィリング横浜	57名	12名
第3回	7月18日(水)	かなっくホール	124名	10名
第4回	7月22日(日)	健康福祉センター	103名	11名
第5回	7月24日(火)	サンハート	73名	8名
合計			502名	54名

2. 発言内容

市民説明会の意見交換において発言した発言者 54 名の発言内容 99 件を分類し、項目ごとに集計した。なお、1名の発言者が複数の発言をしている場合があるため、発言者数と発言内容件数は一致しない。

	項目	発言数	賛成	反対	質問	その他
1	施策全般	16	1	2	6	7
2	福祉パス	34	4	17	9	4
3	福祉タクシー券	1	0	0	0	1
4	ガイドヘルプ	24	0	11	6	7
5	ガイドボランティア	16	1	12	3	0
6	障害児通学支援	2	0	0	1	1
7	その他移動施策	2	0	1	1	0
8	その他移動以外	4	0	0	3	1
	合計	99	6	43	29	21

～団体等への説明結果～

1. 説明先、発言内容

障害者当事者団体等への説明を団体等からの説明依頼等に基づき 4月19日(木)から8月6日(月)にかけて 32回実施し、延べ 850名が参加した。それぞれの団体等の関心のある施策について意見が集中したが、傾向としては、福祉パス有料化、ガイドボランティア奨励金引き下げ、ガイドヘルプ基準時間見直しに関する意見が目立った。

なお、この説明では、6月11日(月)以降、意見募集リーフレットを配布し説明を行ったので、参加された方から市民意見募集回答ハガキなどで多くの意見をいただくことができたと思われる。

	説明先	回数	参加人数
1	当事者	11	375
2	家族	9	186
3	支援者・支援機関	11	274
4	その他	1	15
	合計	32	850



「障害者の外出支援制度見直し案」  
に関する市民意見募集

報 告 書

平成 24 年 10 月

横浜市健康福祉局障害福祉課

## 目 次

### 第1章 市民意見募集の概要

1. 市民意見募集報告書の目的	1
2. 市民意見募集用紙の配布数	1
3. 市民意見募集用紙の配布方法	1
4. 意見募集期間	1
5. 回収結果	1

### 第2章 市民意見募集の結果

1. 回答者の属性	2
(1) 回答した方	2
(2) 障害者本人の年齢	2
(3) 障害者本人の障害者手帳と等級	3
2. 利用している制度	4
3. ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについてどう思うか	8
4. 福祉バス、福祉タクシー券の見直しについてどう思うか	12
5. 制度全体の見直しについてどう思うか	16
6. 自由意見	20

### 第3章 市民説明会の結果

1. 実施概要	28
(1) 開催日時及び会場	28
(2) 参加者等	28
(3) 実施内容	28
2. 発言内容	29
(1) 発言内容分類	29
(2) 発言内容	30

### 第4章 団体等への説明結果

1. 実施概要	34
(1) 目的	34
(2) 実施時期、回数、延べ参加者数	34
(3) 意見の傾向	34
(4) その他、実施効果	34
2. 実施結果、意見概要	35

## 第1章 市民意見募集の概要

### 1. 市民意見募集報告書の目的

障害者に対する移動支援施策の再構築案について、障害者手帳所持者へのダイレクトメール、一般市民意見公募、一般市民や障害者団体に対する説明会等を行い、その結果を集計・分析する。

### 2. 市民意見募集用紙の配布数

対象者	配布数
障害者手帳所持者へのダイレクトメール	10,000部
一般市民意見公募等	15,000部
合計	25,000部

### 3. 市民意見募集用紙の配布方法

- (1) 障害者手帳所持者のうち、約1万人の方への意見募集用紙のダイレクトメール送付
- (2) 区役所、市役所等での意見募集用紙の配布  
区役所広報相談係、市役所市民情報センター、行政サービスコーナー、市内主要駅等
- (3) 市内5か所で開催した市民説明会での配布
- (4) 障害者団体説明会での配布
- (5) 横浜市ホームページ掲載版を見てのEメール等での回答

### 4. 意見募集期間

平成24年6月11日(月)～8月17日(金)

### 5. 回収結果

	有効回収数
回答はがき	4,055
封書	7
FAX	30
Eメール	48
計	4,140

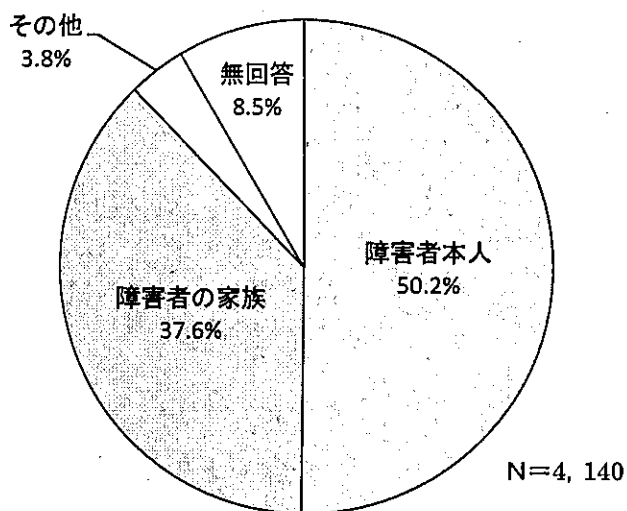
## 第2章 市民意見募集の結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) 回答した方

回答した方は、「障害者本人」が50.2%、「障害者の家族」が37.6%、「その他」が3.8%であった。

図1-1 回答した方

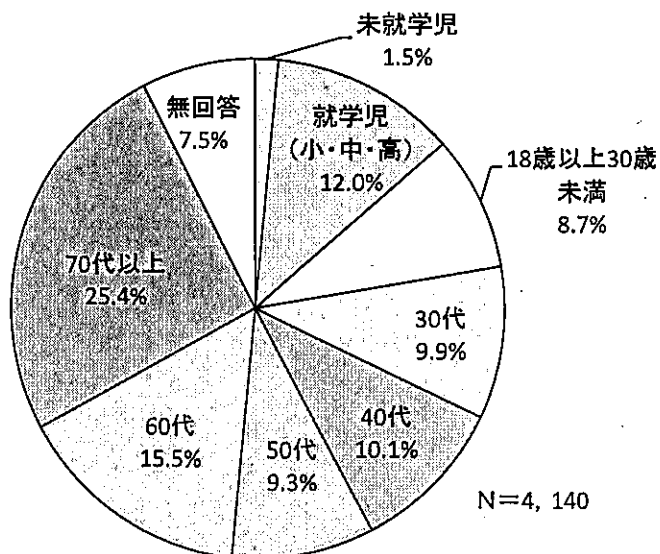


#### (2) 障害者本人の年齢

障害者本人の年齢は、「70代以上」が25.4%と最も多く、次いで「60代」が15.5%、「未就学児」が1.5%と最も少なく、他の年齢は8.7~12%であった。

図1-2 障害者本人の年齢

※回答者が障害者本人とは限らない。

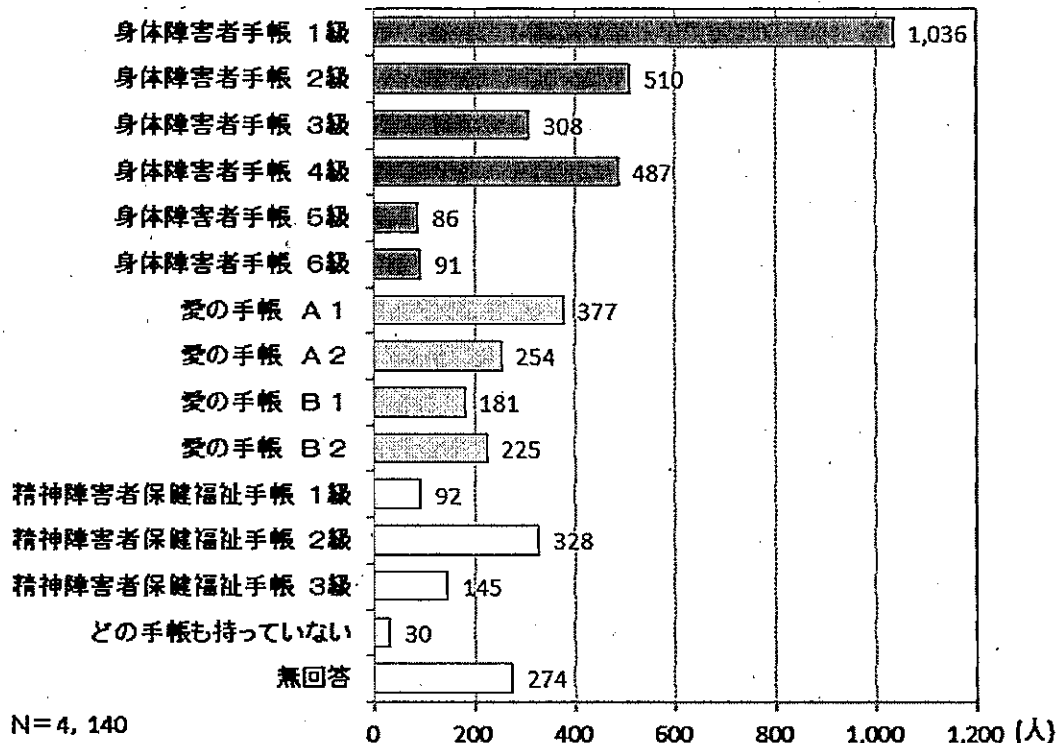


(3) 障害者本人の障害者手帳と等級 (複数回答)

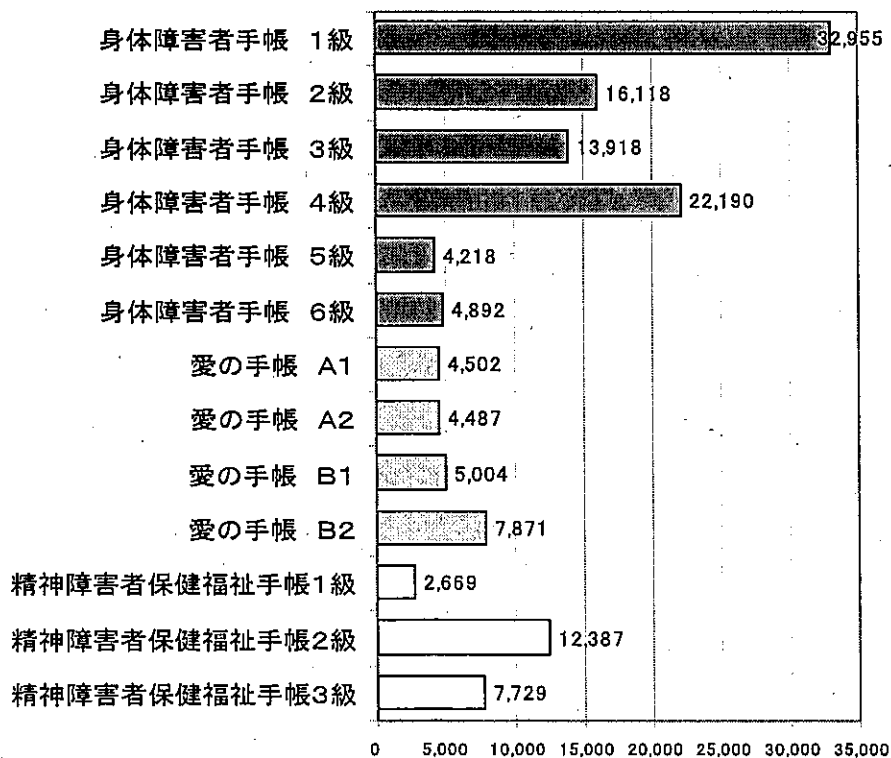
障害者本人の障害者手帳と等級は、「身体障害者手帳 1 級」が最も多い。障害者手帳交付者数と比較すると、愛の手帳所持者からの回答が多く寄せられていることがわかる。

図 1-3 障害者本人の障害者手帳と等級

※回答者が障害者本人とは限らない。



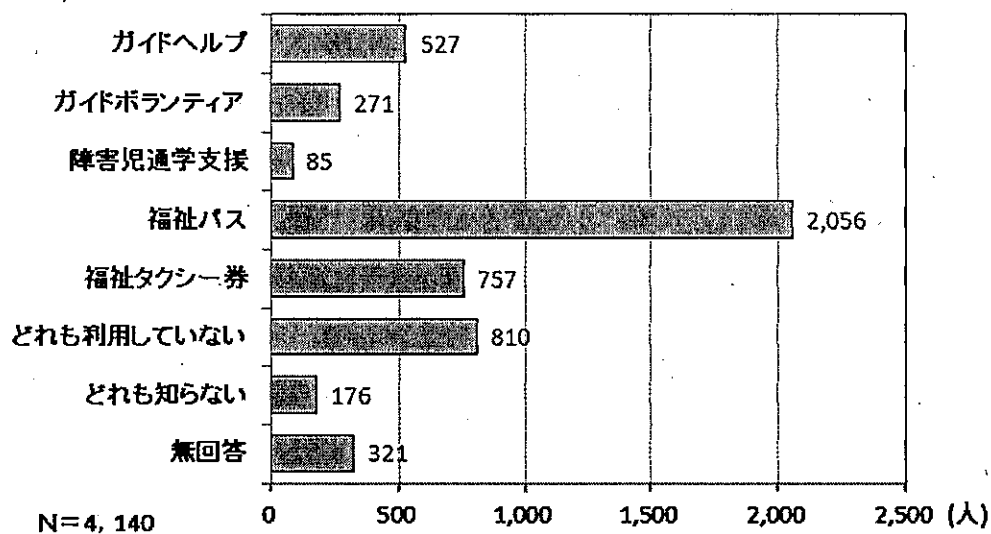
<参考> 障害者手帳交付者数 (平成 23 年度)



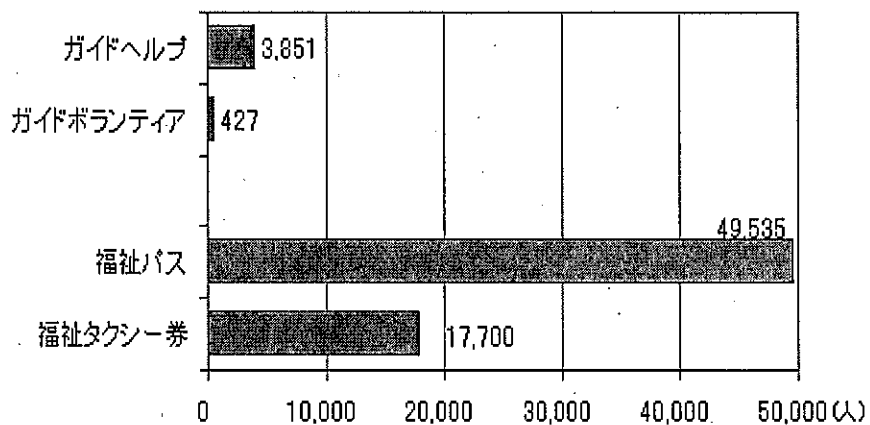
## 2. 利用している制度（複数回答）

利用している制度は、「福祉バス」が最も多いが、各制度の利用人数と比較すると、「ガイドヘルプ」「ガイドボランティア」利用者からの回答が多く寄せられていることがわかる。特に「ガイドボランティア」は、制度利用者の63%にあたる271人から回答が寄せられている。

図2-1 利用している制度



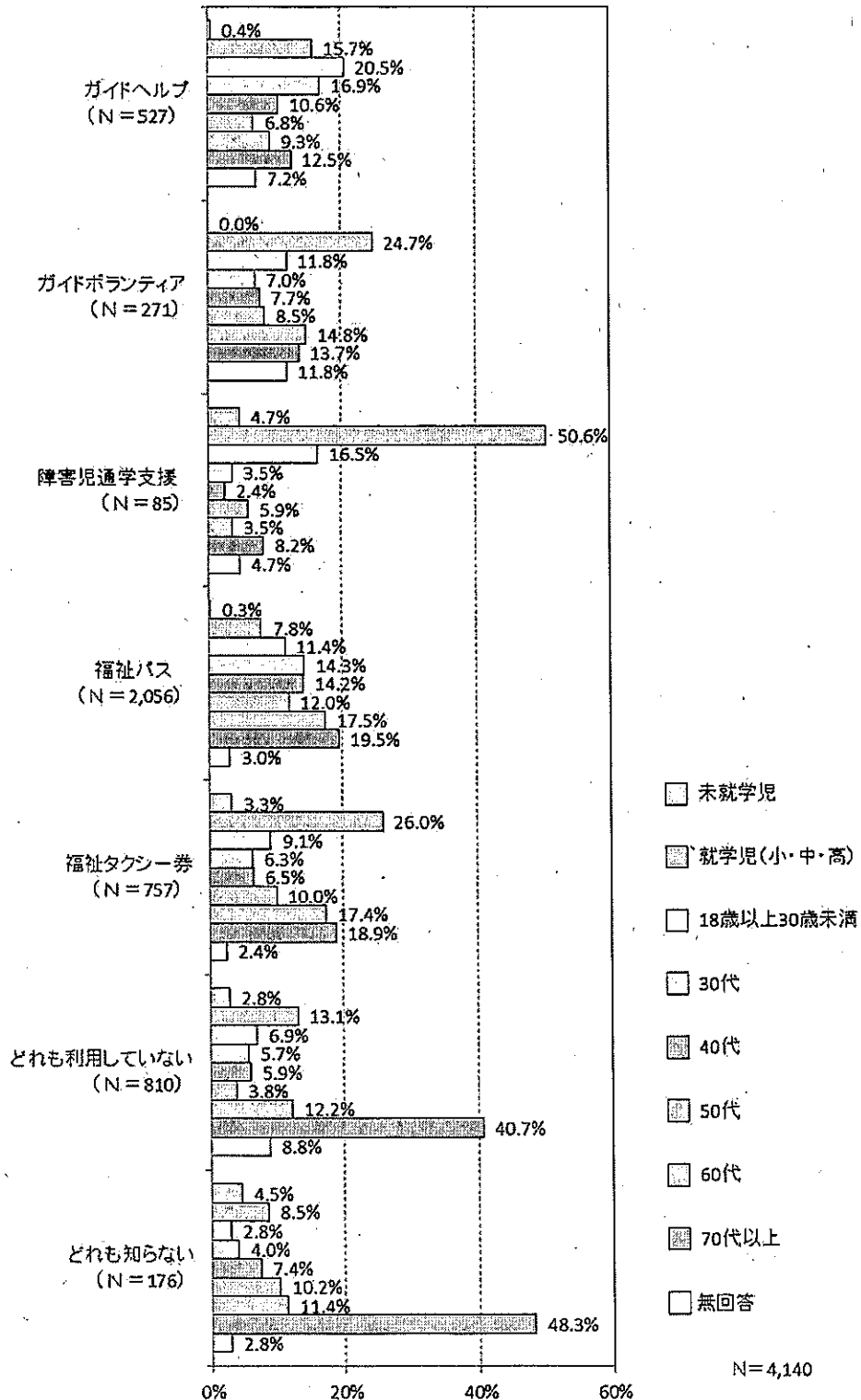
<参考> 各制度利用人数（平成23年度）



利用している制度を障害者本人の年齢別にみると、「ガイドヘルプ」は30歳未満の若年層が多く、「ガイドボランティア」、「障害児通学支援」、「福祉タクシー券」は「就学児（小・中・高）」が多くなっている。なお「福祉パス」の最も大きな割合を占める「70代」19.5%については、福祉パスは70歳未満を対象としているため、過去に福祉パスを利用していた方と考えられる。また、「どれも利用していない」、「どれも知らない」では「70代以上」が多くなっている。

図2-2 利用している制度（障害者本人の年齢別）

※回答者が障害者本人とは限らない。



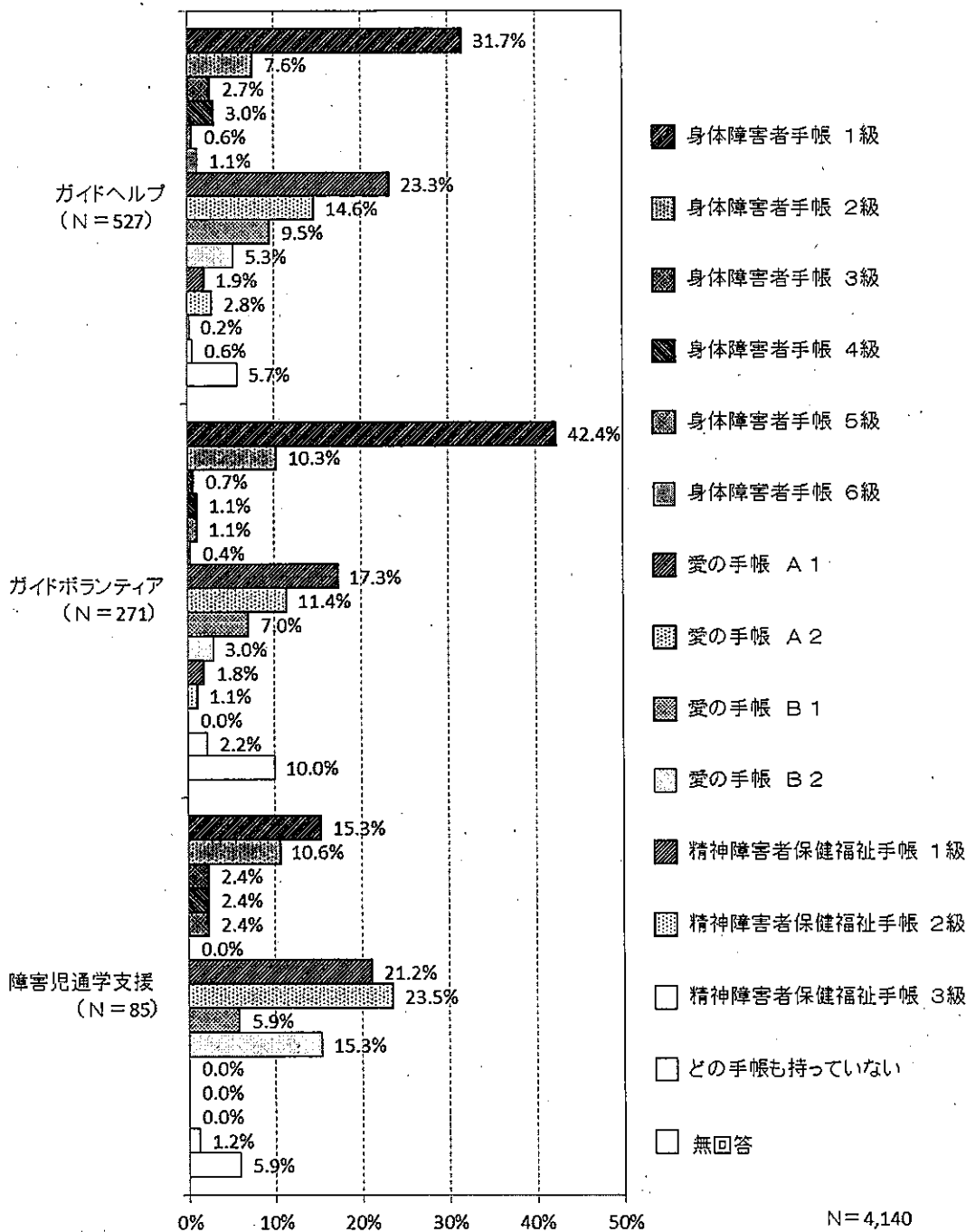
利用している制度を障害者本人の障害者手帳等級別にみる。

なお、持っている手帳では利用できない制度を利用しているのは、あわせて利用可能な障害者手帳を所持しているためである。

「ガイドヘルプ」と「ガイドボランティア」は「身体障害者手帳1級」が最も多く、次いで「愛の手帳A1」となっている。「障害児通学支援」では「愛の手帳A2」が最も多く、次いで「愛の手帳A1」となっている。

図2-3 利用している制度（障害者本人の障害者手帳等級別）その1

※回答者が障害者本人とは限らない。



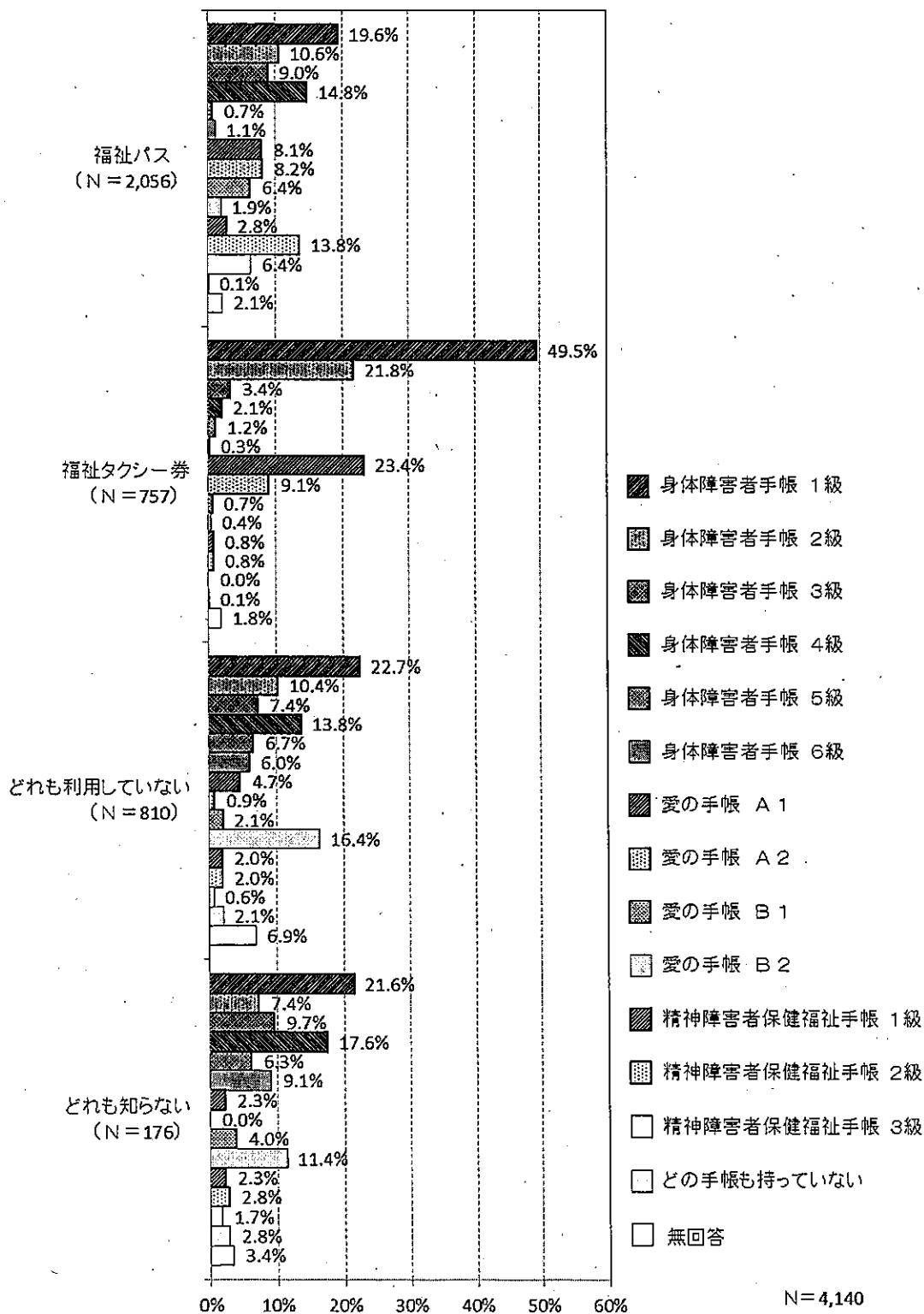


「福祉バス」を利用している方については、「身体障害者手帳1級」の方が最も多い。各手帳の割合としては、交付枚数の割合と近いといえる。

「福祉タクシー券」は、重度障害者を対象としているため「身体障害者手帳1級」、「愛の手帳A1」、「身体障害者手帳2級」が多くなっている。各手帳の割合としては、交付枚数の割合と近いといえる。

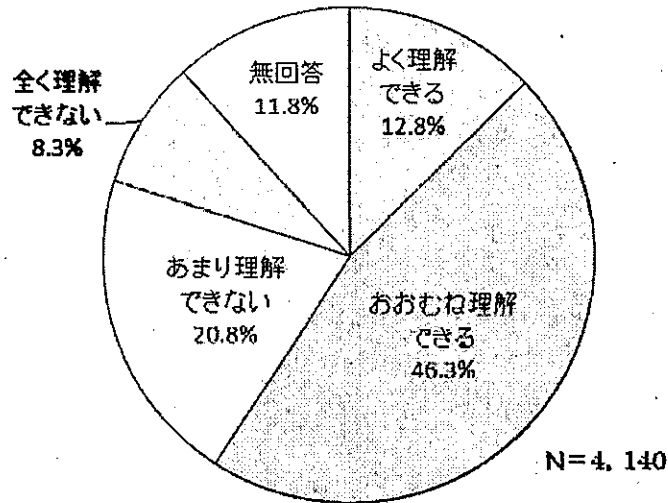
図2-4 利用している制度（障害者本人の障害者手帳と級別）その2

※回答者が障害者本人とは限らない。



3. ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについてどう思うか  
 ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについては、「よく理解できる」(12.8%)と「おおむね理解できる」(46.3%)をあわせた「理解できる」が59.1%であった。

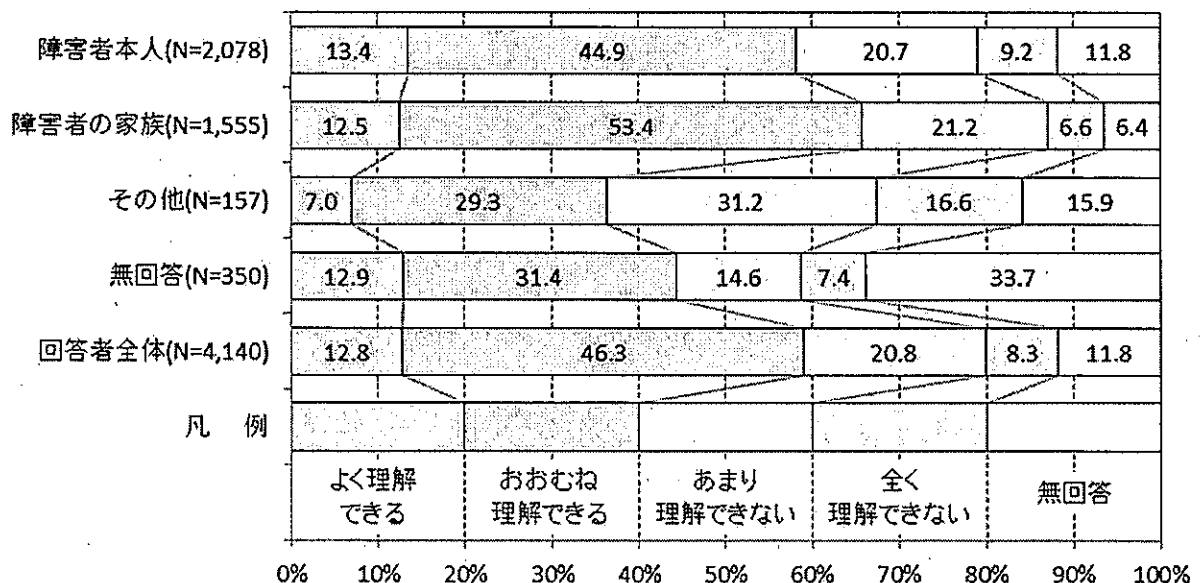
図3-1 ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて



ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて、回答者別にみると、「その他」では「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて36.3%とやや少ない結果となった。「その他」については、回答数そのものが少ないものの、支援者あるいは一般市民からの意見と考えられる。

「障害者本人」と「障害者の家族」については、「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせていずれも半数を超えており、特に「障害者の家族」については、回答者全体の傾向に対しても「おおむね理解できる」の割合が高い結果となった。

図3-2 ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援について（回答者別）

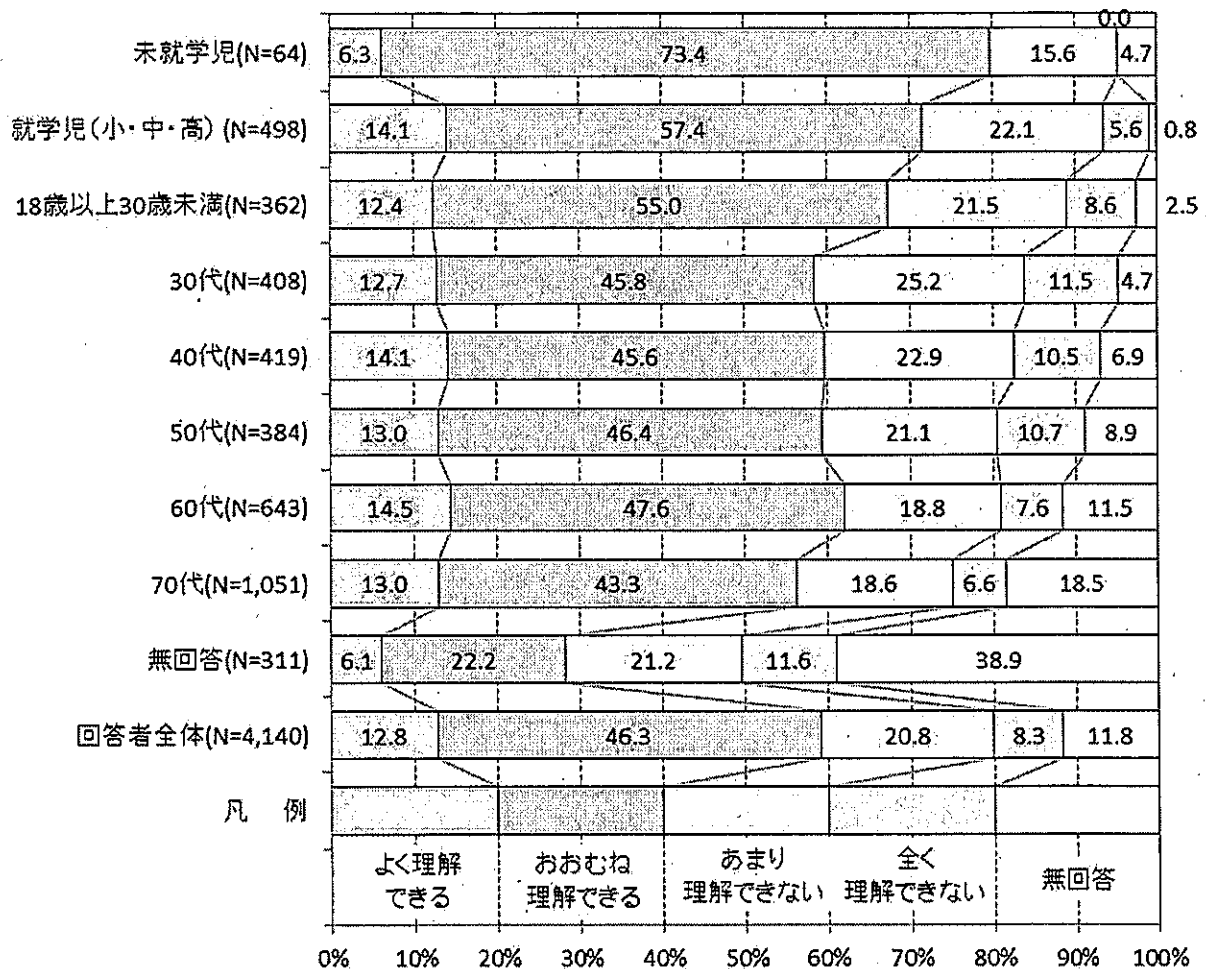


ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて、障害者本人の年齢別にみると、特に30歳未満の若年層について「よく理解できる」「おおむね理解できる」の割合が高い傾向にある。

また、どの年代においても「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて半数以上を占める結果となった。

図3-3 ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて

(障害者本人の年齢別) ※回答者が障害者本人とは限らない。

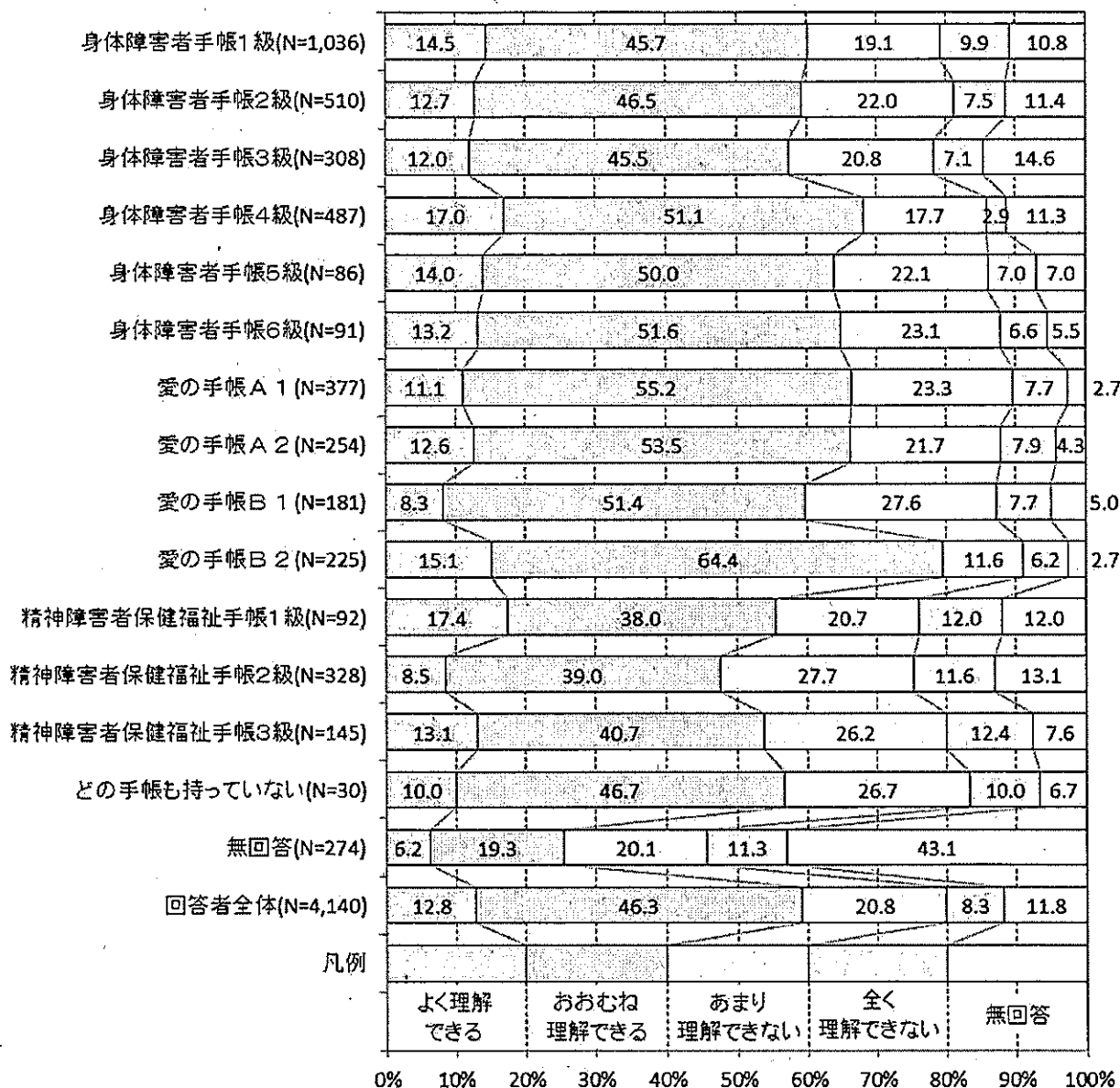


ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて、障害者本人の障害者手帳等級別にみると、「愛の手帳B2」所持者については「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて79.5%と、突出して高い結果を示している。

「精神障害者保健福祉手帳2級」所持者については「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて47.5%と「理解できる」が半数を割っている。

図3-4 ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて

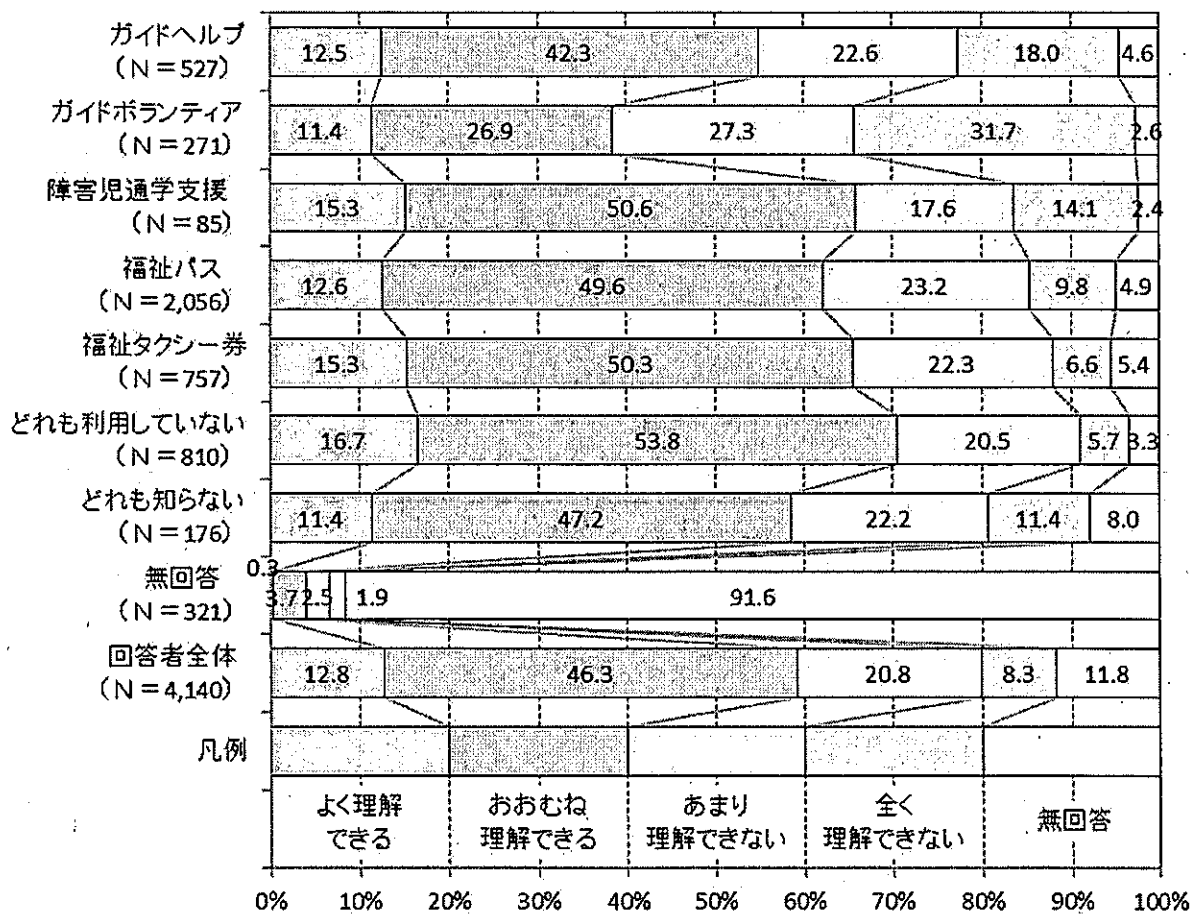
(障害者本人の障害者手帳等級別) ※回答者が障害者本人とは限らない。



ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて、利用している制度別にみると、その他の制度利用者については、いずれも「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて半数以上を占めているが、「ガイドボランティア」利用者については「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて38.3%と、突出して低い結果を示した。

なお、ガイドボランティアについては、4ページでも示しているとおり、月平均利用人数500人前後に対して271人からの回答が寄せられている。月平均3,000～4,000人が利用するガイドヘルプの回答者数527人に対し、非常に多い回答者数となっている。

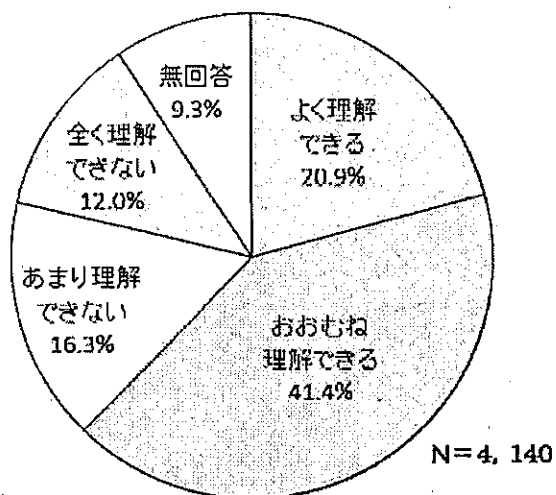
図3-5 ガイドヘルプ、ガイドボランティア、障害児通学支援の見直しについて  
(利用している制度別)



#### 4. 福祉パス、福祉タクシー券の見直しについてどう思うか

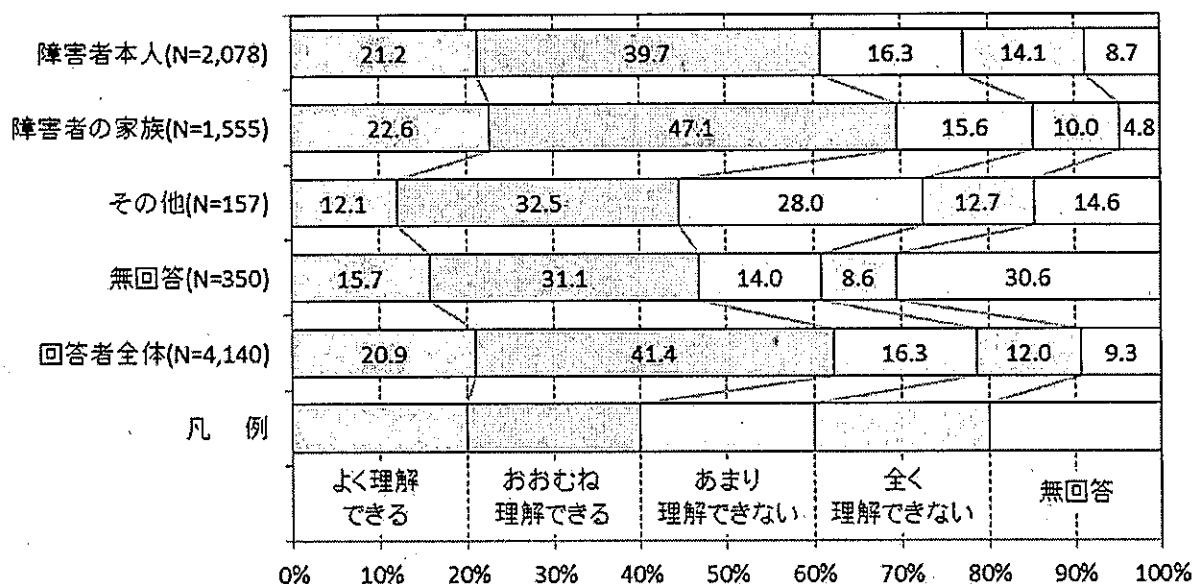
福祉パス、福祉タクシー券の見直しについては、「よく理解できる」(20.9%)と「おおむね理解できる」(41.4%)をあわせた「理解できる」が62.3%であった。

図4-1 福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて



福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて回答者別にみると、「障害者の家族」の「よく理解できる」と「おおむね理解できる」をあわせた「理解できる」が回答者全体と比較し多くなっている。

図4-2 福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて（回答者別）

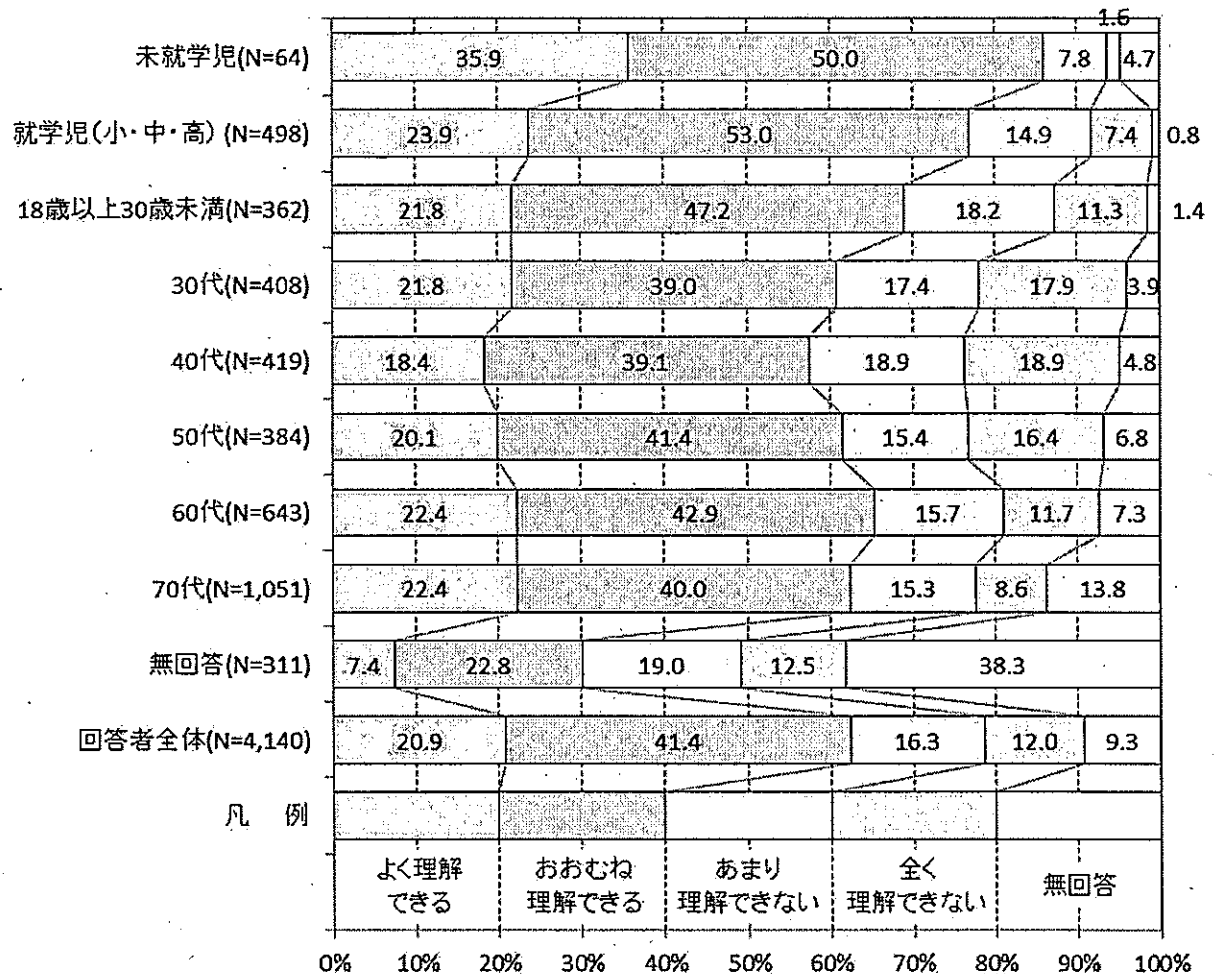


福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて、障害者本人の年齢別にみると、特に30歳未満の若年層について「よく理解できる」「おおむね理解できる」の割合が高い傾向にある。

また、どの年代においても「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて半数以上を占める結果となった。

図4-3 福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて（障害者本人の年齢別）

※回答者が障害者本人とは限らない。



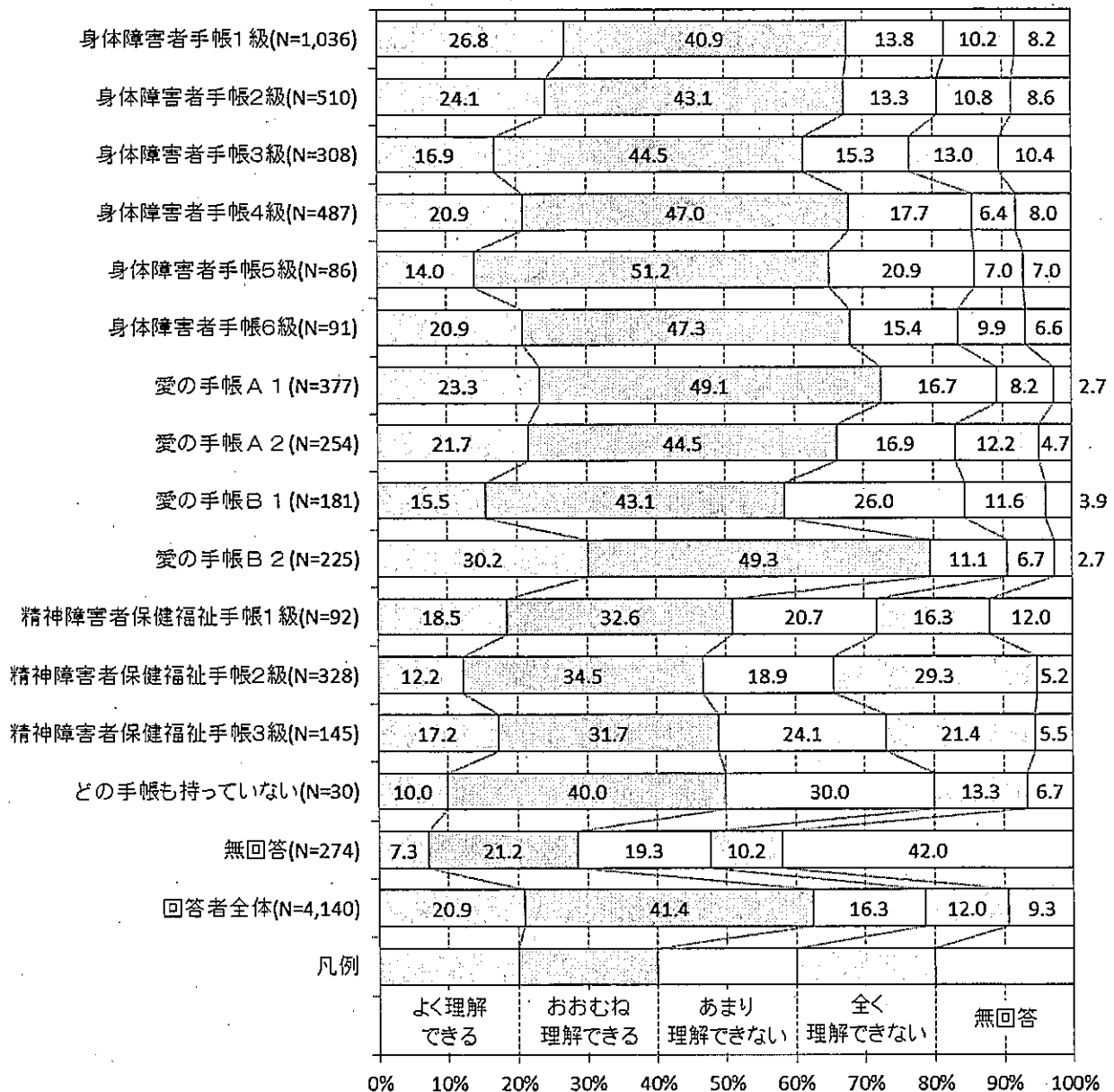
福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて障害者本人の障害者手帳等級別にみると、「愛の手帳B2」では「よく理解できる」(30.2%)と「おおむね理解できる」(49.3%)、ともに多くなっているが、福祉パスのB2対象者拡大が支持される結果となっている。

また、「身体障害者手帳1級」、「身体障害者手帳2級」、「愛の手帳A1」、「愛の手帳A2」の「よく理解できる」が多くなっているが、福祉タクシー券の月毎の利用枚数制限撤廃が影響していると思われる。

「精神障害者保健福祉手帳」は全般的に「よく理解できる」、「おおむね理解できる」が少ないが、特に「精神障害者保健福祉手帳2級」と「精神障害者保健福祉手帳3級」では「理解できる」が半数を割っている。

図4-4 福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて（障害者本人の障害者手帳等級別）

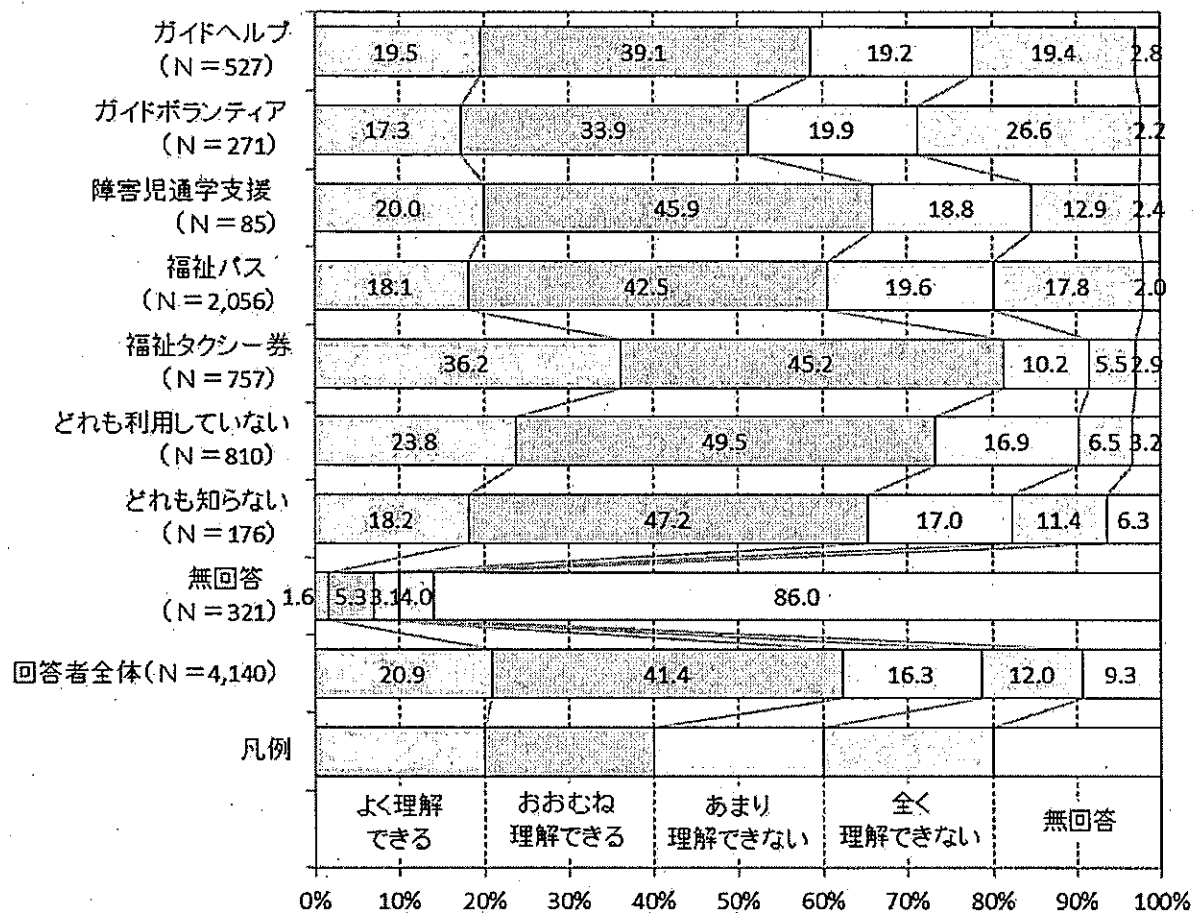
※回答者が障害者本人とは限らない。





福祉バス、福祉タクシー券の見直しについて利用している制度別にみると、福祉タクシー券利用者では「よく理解できる」(36.2%)と「おおむね理解できる」(45.2%)をあわせた「理解できる」が81.4%と最も多く、月毎の利用枚数制限撤廃が支持されていることが伺える。福祉バス利用者でも60.6%と、半数以上の方が「理解できる」と答えている。

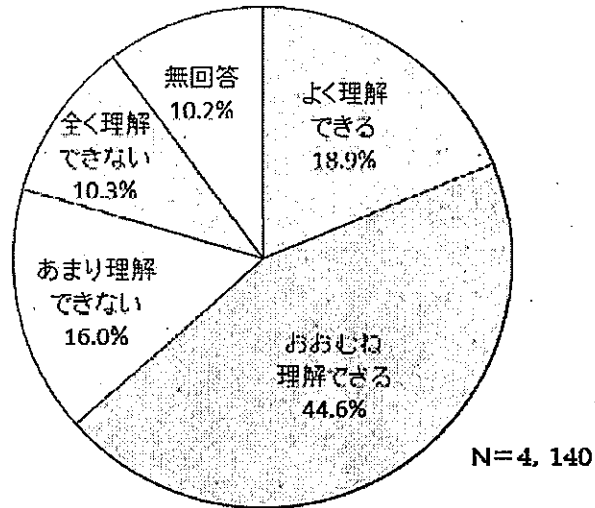
図4-5 福祉バス、福祉タクシー券の見直しについて(利用している制度別)



## 5. 制度全体の見直しについてどう思うか

制度全体の見直しについては、「よく理解できる」(18.9%)と「おおむね理解できる」(44.6%)をあわせた「理解できる」が63.5%であった。

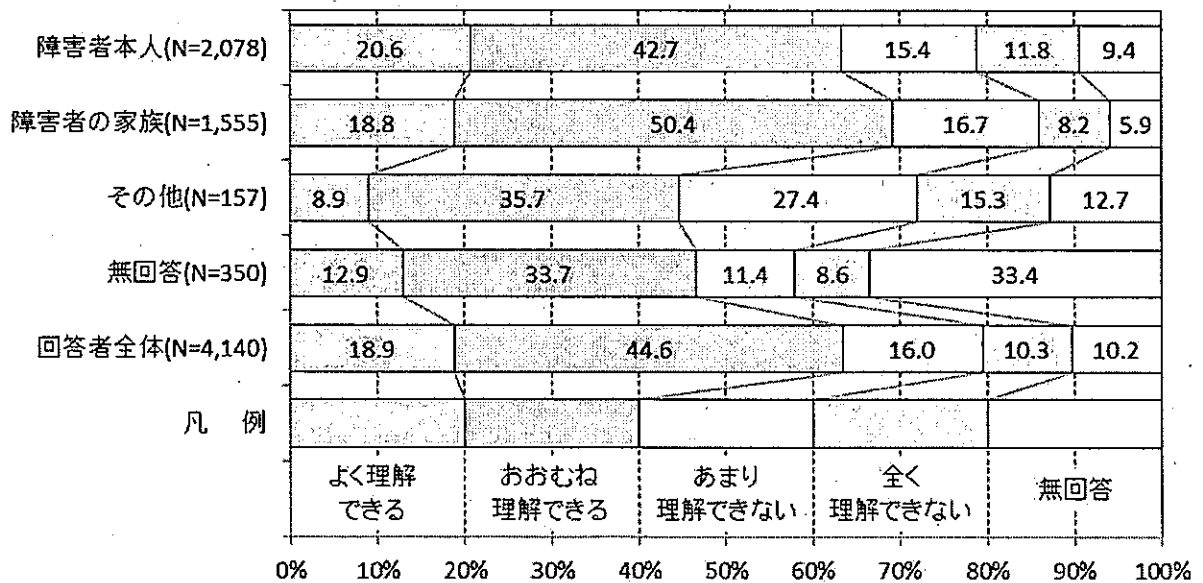
図5-1 制度全体の見直しについて



制度全体の見直しについて回答者別にみると、「障害者の家族」の「よく理解できる」と「おおむね理解できる」をあわせた「理解できる」が回答者全体と比較し多くなっている。

一方、支援者あるいは一般市民からの意見と考えられる「その他」では「あまり理解できない」と「全く理解できない」をあわせた「理解できない」が多くなっている。

図5-2 制度全体の見直しについて（回答者別）

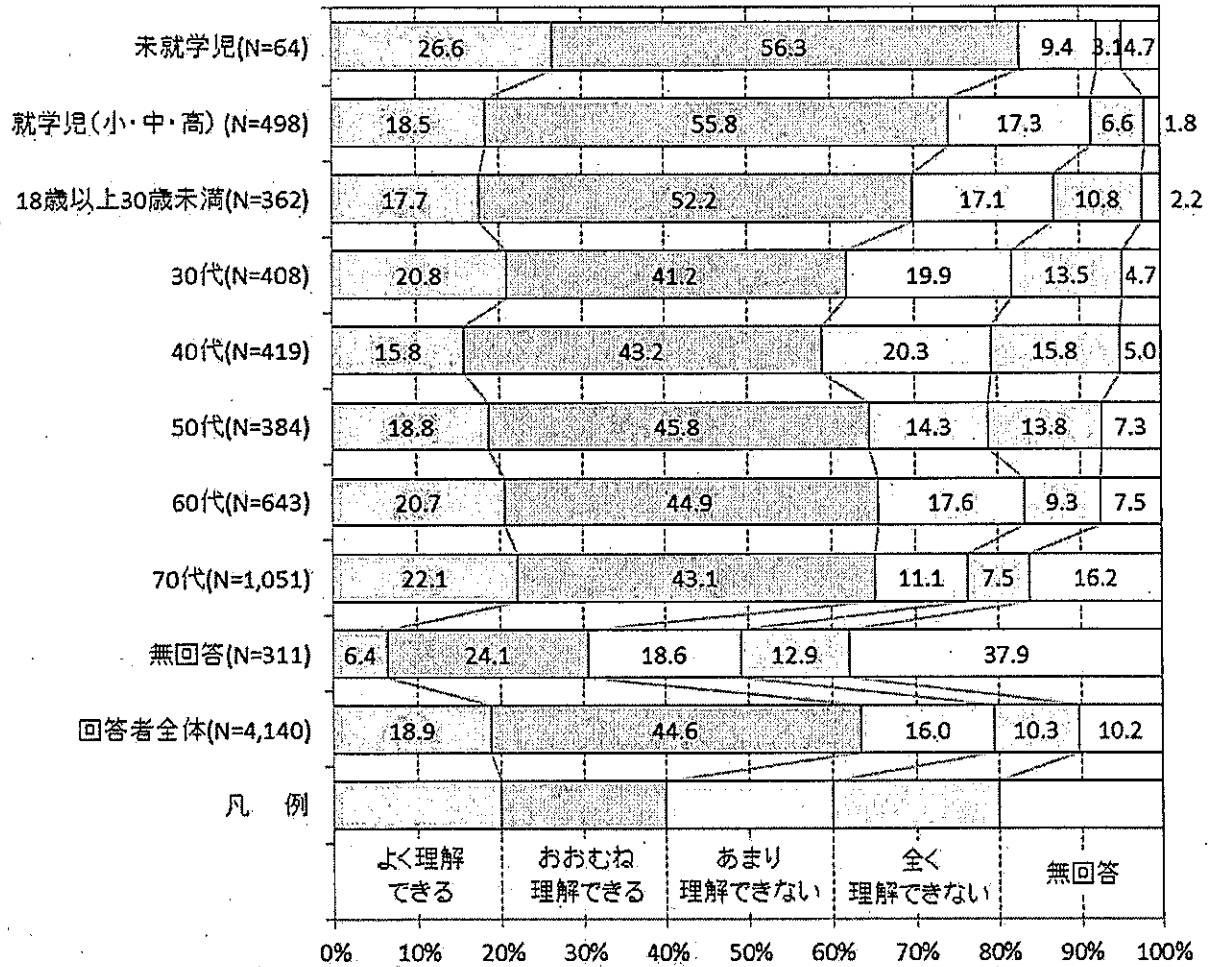


制度全体の見直しについて障害者本人の年齢別にみると、30歳未満の若年層について「よく理解できる」と「おおむね理解できる」をあわせた割合が高い傾向にある。

また、どの年代においても「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて半数以上を占める結果となった。

図5-3 制度全体の見直しについて（障害者本人の年齢別）

※回答者が障害者本人とは限らない。

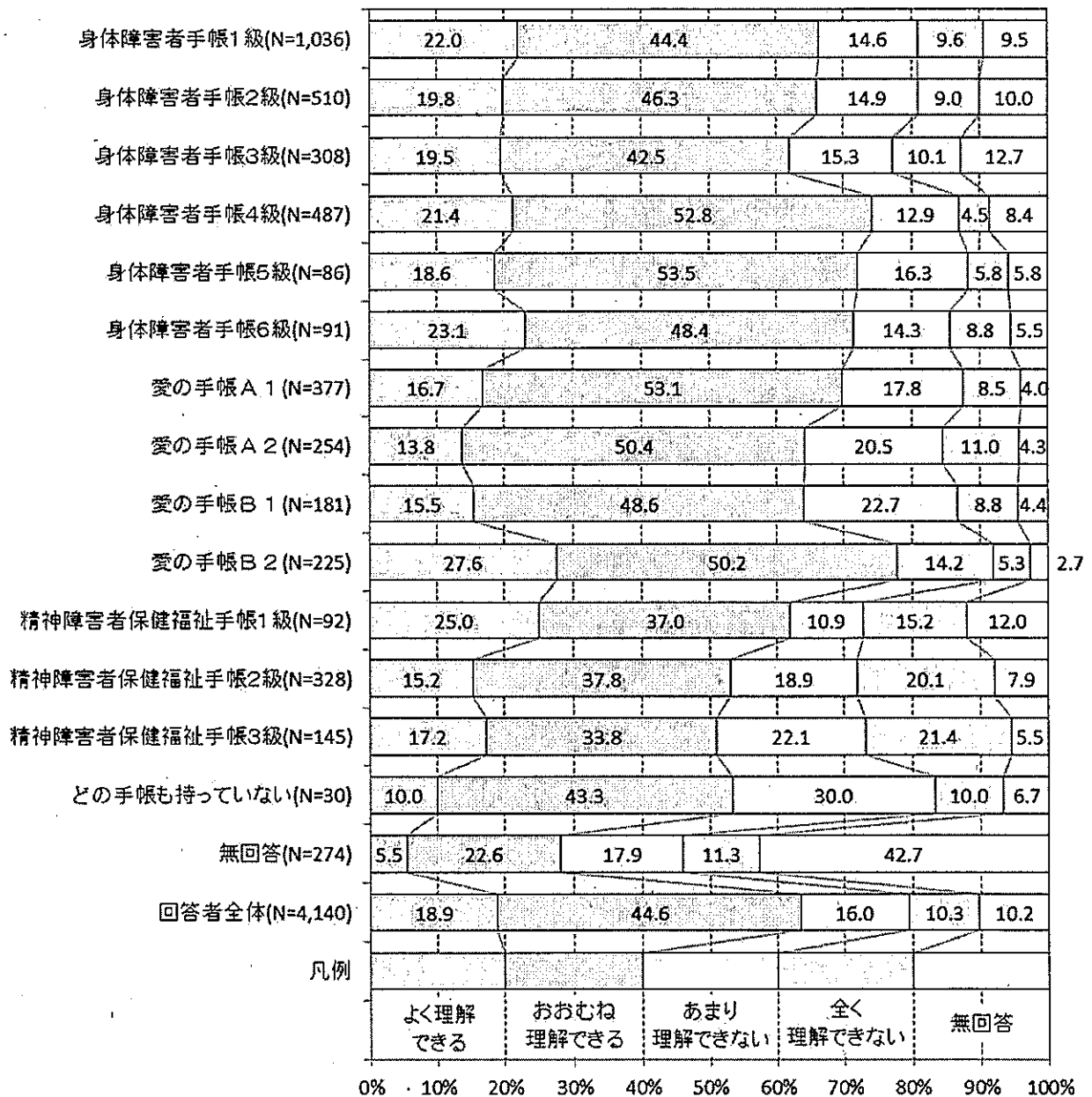


制度全体の見直しについて障害者本人の障害者手帳等級別にみると、「愛の手帳B 2」所持者については「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて77.8%と、突出して高い結果を示している。

「精神障害者保健福祉手帳2級」「精神障害者保健福祉手帳3級」所持者については「よく理解できる」「おおむね理解できる」が少ないが、全ての手帳等級で「よく理解できる」「おおむね理解できる」を合わせて半数以上となった。

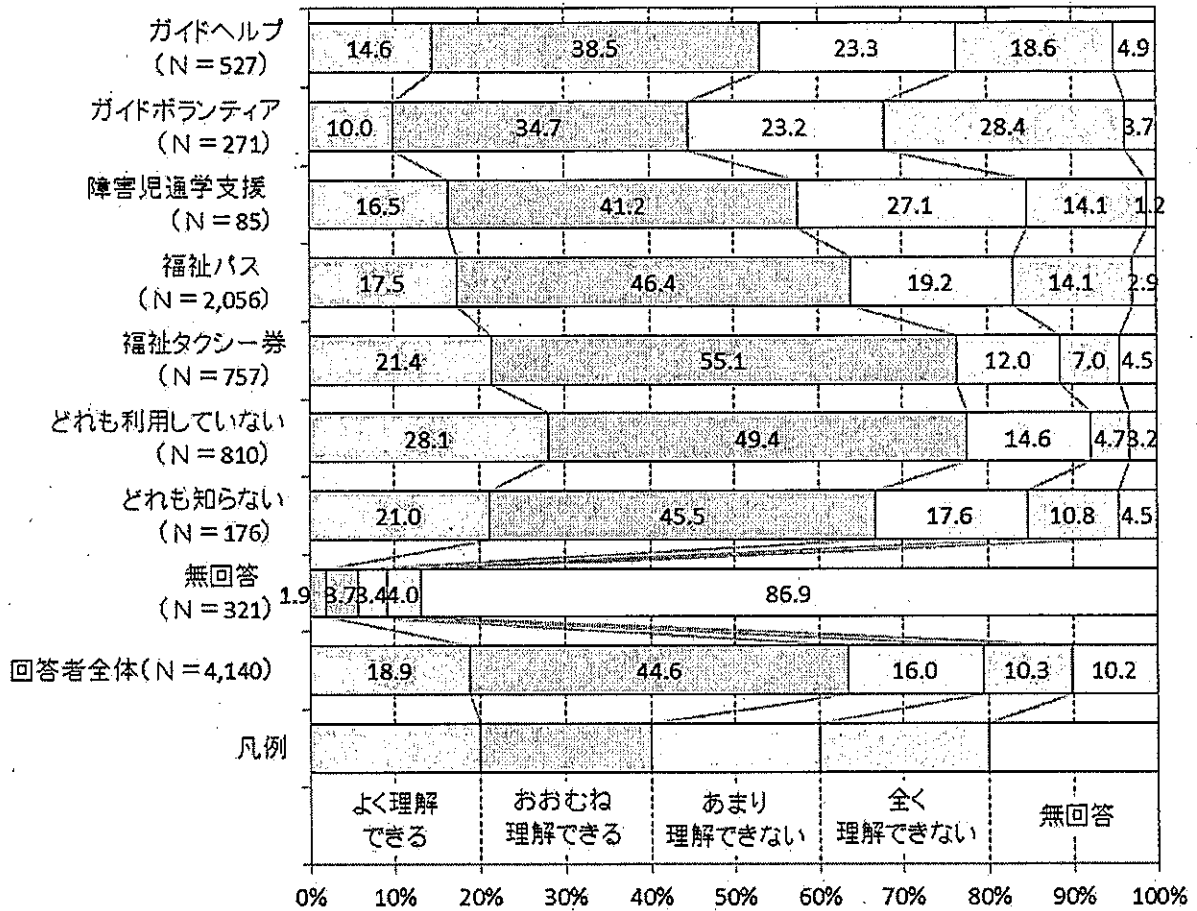
図5-4 制度全体の見直しについて（障害者本人の障害者手帳等級別）

※回答者が障害者本人とは限らない。



制度全体の見直しについて利用している制度別にみると、福祉タクシー券と福祉バス利用者は「理解できる」と「おおむね理解できる」の割合が高くなっているが、ガイドヘルプ利用者は回答者全体を下回り、ガイドボランティア利用者は「あまり理解できない」と「全く理解できない」の割合が半数を超えている。

図5-5 制度全体の見直しについて（利用している制度別）



## 6. 自由意見

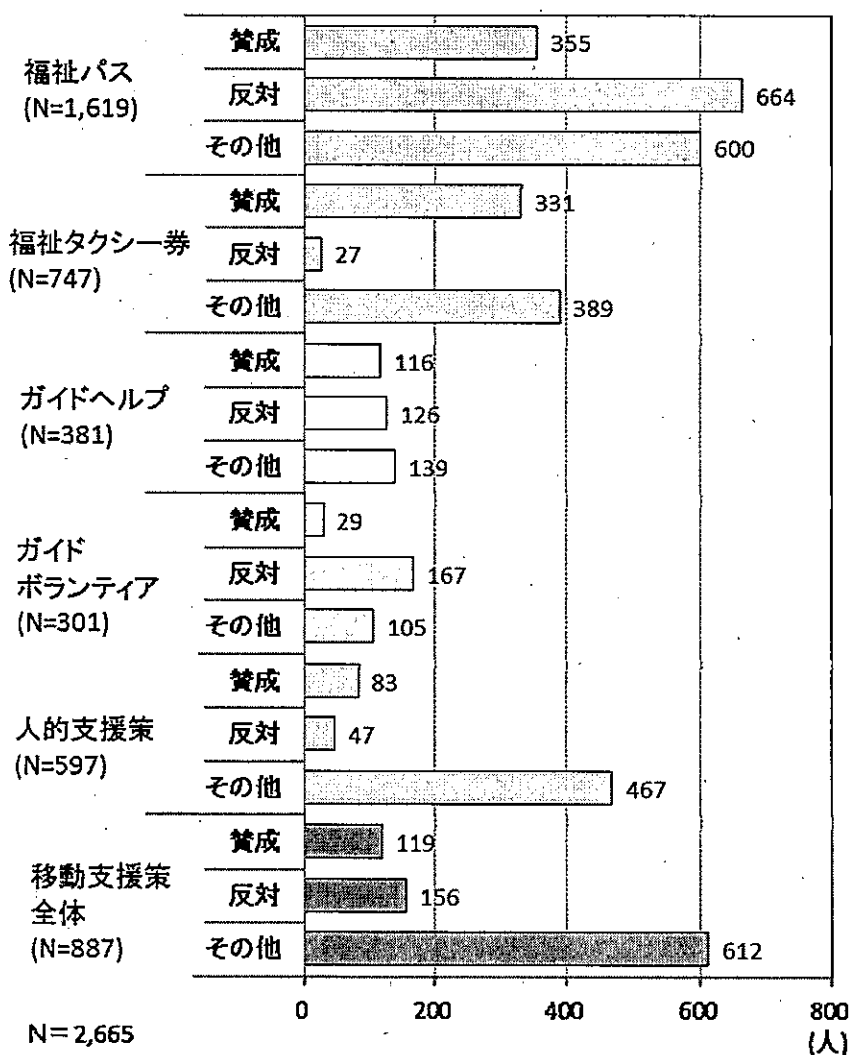
自由意見は回答者全体の64.4%に当たる2,665名の方から「賛成」、「反対」、「その他」と様々な回答があった。

回答内容を「福祉パス」、「福祉タクシー券」、「ガイドヘルプ」、「ガイドボランティア」、「人的支援策」、「移動支援策全体」のそれぞれ「賛成」、「反対」、「その他」に分類し、さらに69項目の小分類に整理し回答者数を算出した。

「福祉パス」、「ガイドヘルプ」、「ガイドボランティア」は、「反対」が「賛成」を上回り、「福祉タクシー券」は、「賛成」が「反対」を上回った。

「福祉パス」の「その他」意見は、「感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。」といった意見が多く、「福祉タクシー券」の「その他」意見は、「ガソリン代の補助がほしい」が多くなっている。「人的支援策」と「移動支援策全体」の「その他」意見は、多種多様な意見となっている。

図6-1 自由意見



## 市民意見募集自由意見内訳

回答率は各事業の回答者の内、どのくらいの方が回答をしているかの割合をさす。

事業名	中分類	回答数	回答率	No	小分類	回答数	回答率
福祉バス (N=1,619)	賛成	355	21.9%	1	負担は導入すべき。当然。よく理解できる。賛成。 (負担額ももっととってもいい。3,200円払う価値がある)	143	8.8%
				2	負担は理解できる。仕方ないと思う。やむをえない。	75	4.6%
				3	B2拡大賛成。(B2にも拡大してほしい。)	74	4.6%
				4	上記にあてはまらないその他	63	3.9%
	反対	664	41.0%	5	有料化反対。負担は困る。現状維持で。無料のままがいい。	473	29.2%
				6	負担額を安くしてほしい。	44	2.7%
				7	所得ごとに段階的な負担、収入に応じた負担を。	52	3.2%
				8	負担金の支払を分割してほしい。	3	0.2%
				9	上記にあてはまらないその他	92	5.7%
	その他	600	37.1%	10	感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。	196	12.1%
				11	交通事業者に対し、利用ごとに課金するシステムを導入すべき。	33	2.0%
				12	利用者だけに郵送、毎回申請させる仕組み等更なる適正化。	34	2.1%
				13	1人5万円は知らなかった。5万円の根拠を知りたい。	22	1.4%
				14	更なる利用範囲拡大要望 (他電鉄でも使えるようにしてほしい。隣接市でも使用可能にしてほしい。)	34	2.1%
				15	福祉バスと福祉タクシー券併給してほしい。 どちらか選択しなければならないのはおかしい	77	4.8%
				16	バス運転手の態度について	5	0.3%
				17	上記にあてはまらないその他	199	12.3%

事業名	中分類	回答数	回答率	No	小分類	回答数	回答率
福祉タクシー券 (N=747)	賛成	331	44.3%	18	タクシー月制限撤廃賛成(月制限が不便、年度内自由にしてほしい)	282	37.8%
				19	施設入所拡大賛成	2	0.3%
				20	精神1級拡大賛成	10	1.3%
				21	上記にあてはまらないその他	37	5.0%
	反対	27	3.6%	22	65歳以上手帳取得者にも交付してほしい。	21	2.8%
				23	上記にあてはまらないその他	6	0.8%
	その他	389	52.1%	24	感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。	32	4.3%
				25	助成費の拡大要望 (タクシー券枚数増やしてほしい、1枚あたりの金額増額してほしい)	29	3.9%
				26	更なる対象者範囲拡大要望 (身体3・4級、B1、精神2級にも交付してほしい)	56	7.5%
				27	ガソリン代の補助がほしい	67	9.0%
				28	タクシー券も有料にすべき	16	2.1%
				29	タクシー運転手の態度について	19	2.5%
				30	上記にあてはまらないその他	170	22.8%

事業名	中分類	回答数	回答率	No	小分類	回答数	回答率
ガイドヘルプ (N=381)	賛成	116	30.4%	31	通学・通所への拡大賛成(通学・通所支援を充実してほしい)	100	26.2%
				32	資格要件の緩和に賛成	14	3.7%
				33	上記にあてはまらないその他	2	0.5%
	反対	126	33.1%	34	基準時間30時間に反対	116	30.4%
				35	資格要件の緩和に反対(質の低下につながる)	5	1.3%
				36	現状維持にして欲しい。	2	0.5%
				37	上記にあてはまらないその他	3	0.8%
	その他	139	36.5%	38	感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。	7	1.8%
				39	現状制度への不満・意見(分かりづらい、利用しにくい、不公平)	20	5.2%
				40	人手が足りない。ヘルパー増加を望む。	37	9.7%
				41	ヘルパーの対応・知識について(質の向上を望む)	8	2.1%
				42	活動中の支援もしてもらいたい(プール、スポーツなど)	10	2.6%
				43	通院にも適用してほしい	16	4.2%
				44	上記にあてはまらないその他	41	10.8%

事業名	中分類	回答数	回答率	No	小分類	回答数	回答率
ガイド ボランティア (N=301)	賛成	29	9.6%	45	奨励金見直し賛成(ボランティアだから無償でもいい)	3	1.0%
				46	余暇への拡大賛成	11	3.7%
				47	対象者拡大賛成(視覚・全身3級以下)	12	4.0%
				48	上記にあてはまらないその他	3	1.0%
	反対	167	55.5%	49	奨励金の引き下げに反対(ボランティア頼みづらい。担い手が減ってしまう。)	145	48.2%
				50	現状維持にして欲しい。	14	4.7%
				51	上記にあてはまらないその他	8	2.7%
	その他	105	34.9%	52	感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。	2	0.7%
				53	ボランティアを増やして欲しい。	23	7.6%
				54	使いたい時に使えるようにして欲しい。(ボランティアを探すのが大変。)	16	5.3%
55				ボランティアの質の向上(研修を充実させて欲しい。)	13	4.3%	
				56	上記にあてはまらないその他	51	16.9%

事業名	中分類	回答数	回答率	No	小分類	回答数	回答率
人的支援施策 (N=597)	賛成	83	13.9%	57	よいと思う。理解できる。見直ししてほしい。	67	11.2%
				58	上記にあてはまらないその他	16	2.7%
	反対	47	7.9%	59	現状維持にして欲しい。	24	4.0%
				60	上記にあてはまらないその他	23	3.9%
	その他	467	78.2%	61	感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。	30	5.0%
				62	必要な人だけに限定して支援するべき。支援しすぎる。	5	0.8%
				63	ガイヘル・ガイボラを一本化すべき。	21	3.5%
				64	現状制度への要望(制度分かりづらい、頼みにくい、人足りない、緊急時対応して、通学支援を充実させて、利用しやすくして等)	199	33.3%
				65	上記にあてはまらないその他	212	35.5%

事業名	中分類	回答数	回答率	No	小分類	回答数	回答率
移動支援施策 全体 (N=887)	賛成	119	13.4%	66	見直しく理解できる。賛成。	119	13.4%
				67	反対。困る。現状維持にして欲しい。	156	17.6%
	その他	612	69.0%	68	感謝している。助かっている。ありがたい。	29	3.3%
				69	上記にあてはまらないその他	583	65.7%

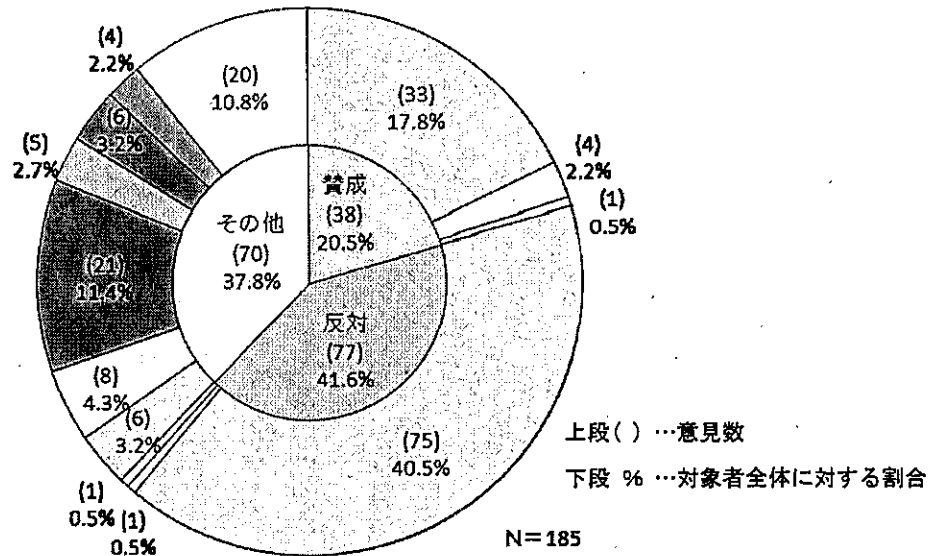


利用制度に関する自由意見の内訳をガイドヘルプ利用者でみると、見直しに「反対」が41.6%と最も多く、「基準時間30時間に反対」が全体の40.5%を占めている。

「賛成」は20.5%で、「通学・通所への拡大賛成」が全体の17.8%となっている。

「その他」は37.8%で、「人手が足りない・ヘルパー増加を望む」が11.4%と最も多く、次いで「現状制度への不満・意見」が4.3%となっている。

図6-2 自由意見（ガイドヘルプ利用者）



【賛成】

- 通学・通所への拡大賛成 (通学・通所支援を充実してほしい)
- 資格要件の緩和に賛成
- 上記にあてはまらないその他

【反対】

- 基準時間30時間に反対
- 資格要件の緩和に反対 (質の低下につながる)
- 上記にあてはまらないその他

【その他】

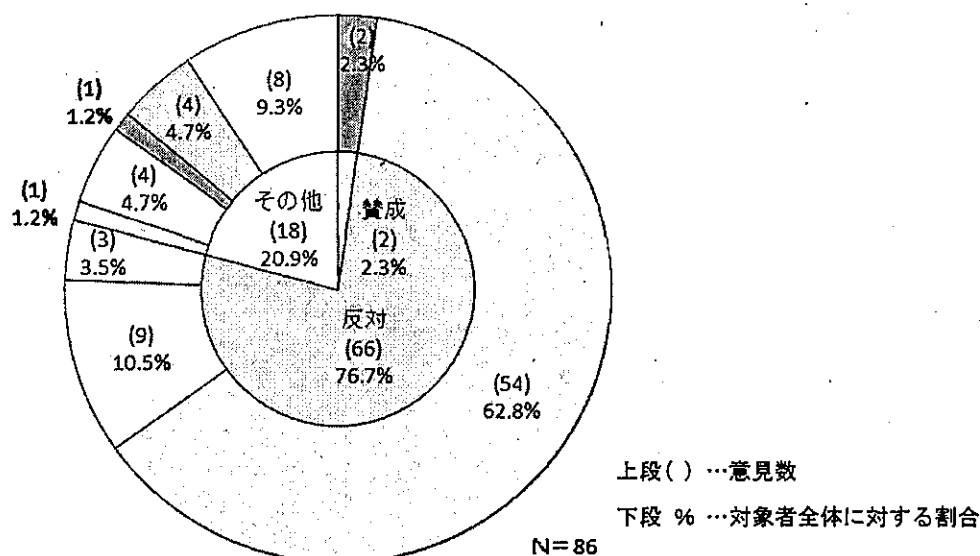
- 感謝している・助かっている・今後も継続して利用したい
- 現状制度への不満・意見 (分かりづらい、利用しにくい、不公平)
- 人手が足りない・ヘルパー増加を望む
- ヘルパーの対応・知識について (質の向上を望む)
- 活動中の支援もしてもらいたい (プール、スポーツなど)
- 通院にも適用してほしい
- 上記にあてはまらないその他

利用制度に関する自由意見の内訳をガイドボランティア利用者でみると、見直しに「反対」が76.7%と最も多く、「奨励金の引き下げに反対」が全体の62.8%を占めている。

「賛成」は2.3%で、すべて「対象者拡大賛成」であった。

「その他」は20.9%で、「ボランティアを増やして欲しい」と「ボランティアの質の向上」が同率で4.7%と最も多い。ただし、福祉パス・タクシー券・ガイドヘルプに比べて自由意見の件数が少ない為、1件あたりの割合への影響は大きくなっている。

図6-3 自由回答（ガイドボランティア利用者）



【賛成】

- 対象者拡大賛成（視覚・全身3級以下）

【反対】

- 奨励金の引き下げに反対（頼みづらい・担い手が減ってしまう）
- 現状維持にして欲しい
- 上記にあてはまらないその他

【その他】

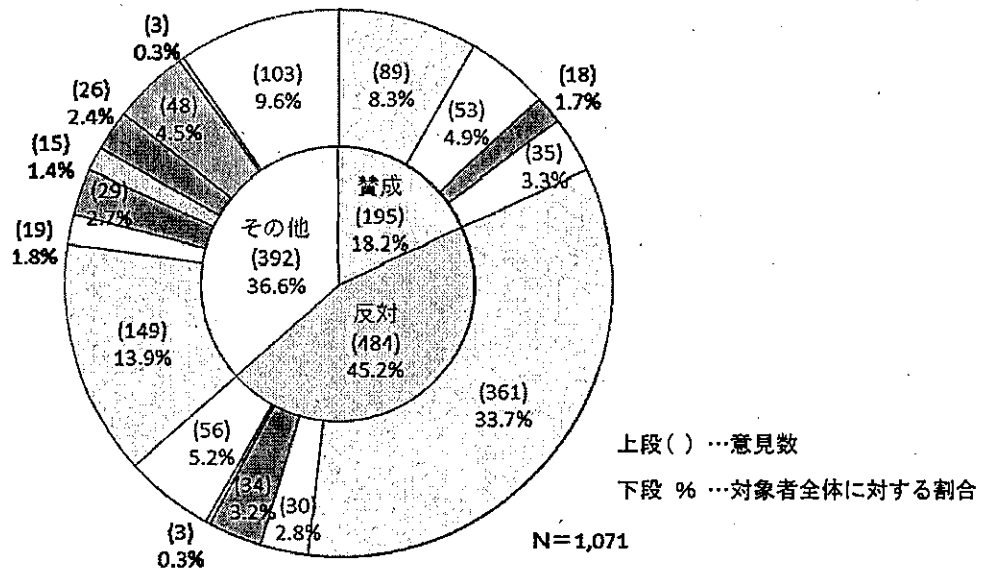
- 感謝している・助かっている・今後も継続して利用したい
- ボランティアを増やして欲しい
- 使いたい時に使えるようにして欲しい（探すのが大変）
- ボランティアの質の向上（研修を充実させて欲しい）
- 上記にあてはまらないその他

利用制度に関する自由意見の内訳を福祉パス利用者でみると、見直しに「反対」が45.2%と最も多く、「有料化反対。負担は困る。現状維持で。無料のままがいい。」が全体の33.7%を占めている。

「賛成」は18.2%で、「負担は導入すべき」が8.3%、「負担は理解できる。仕方ないと思う。やむをえない。」が4.9%であった。

「その他」は36.6%で、「感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。」が13.9%と、非常に多くなっている。

図6-4 自由回答（福祉パス利用者）



【賛成】

- 負担は導入すべき
- 負担は理解できる・仕方ないと思う・やむをえない
- B2拡大賛成。(B2にも拡大してほしい。)
- 上記にあてはまらないその他

【反対】

- 有料化反対・負担は困る・現状維持で・無料のままがいい
- 負担額を安くしてほしい
- 所得ごとに段階的な負担、収入に応じた負担を
- 負担金の支払を分割してほしい
- 上記にあてはまらないその他

【その他】

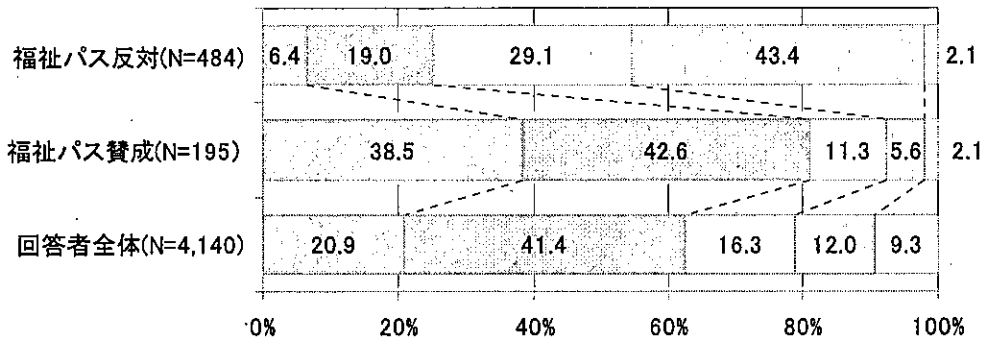
- 感謝している・助かっている・今後も継続して利用したい
- 交通事業者に対し、利用ごとに課金するシステムを導入すべき
- 利用者だけに郵送、毎回申請させる仕組み等更なる適正化
- 1人5万円は知らなかった・5万円の根拠を知りたい
- 更なる利用範囲拡大要望(他電鉄、隣接市など)
- 福祉パスと福祉タクシー券併給してほしい
- バス運転手の態度について
- 上記にあてはまらないその他

福祉パス利用者で福祉パスの反対意見を記入している方の 25.4%は見直しについて理解できると答えており、見直しについて理解はできるものの反対であるという意見を示している。

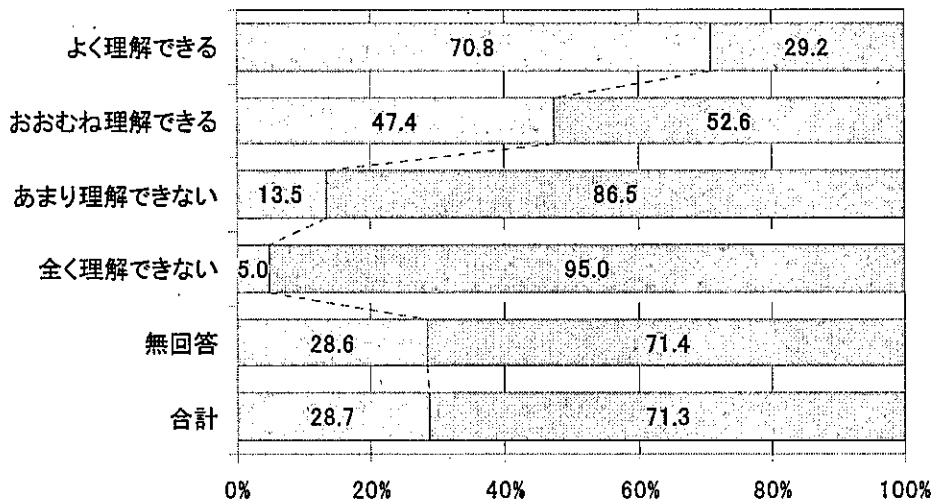
なお、福祉パスの賛成意見を記入している方の 81.1%は見直しに理解できると回答している。

図6-4' 福祉パス利用者自由回答にみる  
福祉パス、福祉タクシー券の見直しについて

□ よく理解できる □ おおむね理解できる □ あまり理解できない □ 全く理解できない □ 無回答



□ 福祉パス賛成 □ 福祉パス反対

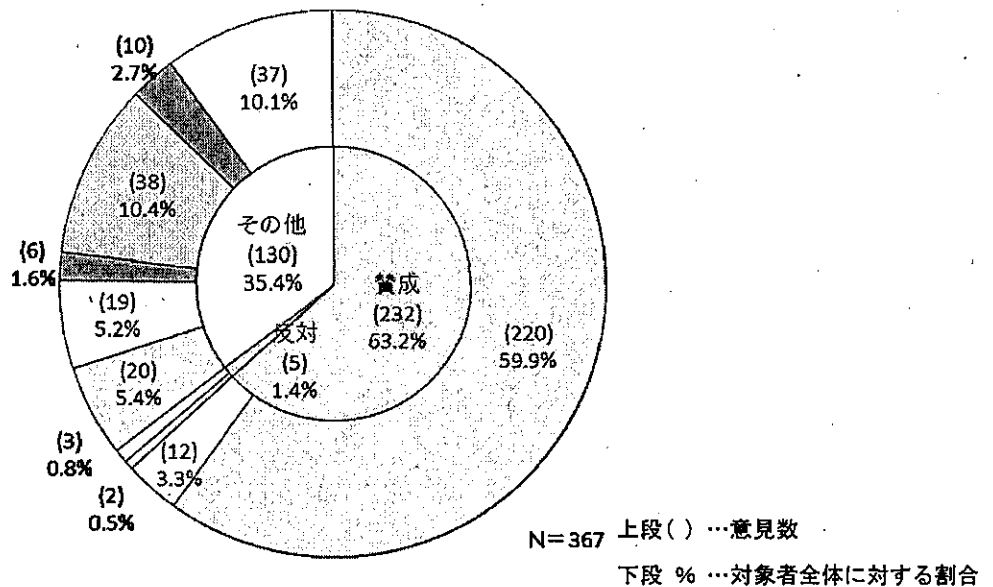


福祉パス利用者	福祉パス賛成	福祉パス反対
よく理解できる	75	31
おおむね理解できる	83	92
あまり理解できない	22	141
全く理解できない	11	210
無回答	4	10
合計	195	484

利用制度に関する自由意見の内訳を福祉タクシー券利用者でみると、見直しに「賛成」が63.2%と最も多く、「タクシー月制限撤廃賛成」が全体の59.9%を占めており、「反対」は1.4%とわずかであった。

「その他」は35.4%で、「ガソリン代の補助がほしい」が10.4%と最も多く、次いで「感謝している。助かっている。今後も継続して利用したい。」が5.4%、「助成費の拡大要望」が5.2%となっている。

図6-5 自由回答（福祉タクシー券利用者）



【賛成】

- タクシー月制限撤廃賛成（月制限が不便、年度内自由にしてほしい）
- 上記にあてはまらないその他

【反対】

- 65歳以上手帳取得者にも交付してほしい
- 上記にあてはまらないその他

【その他】

- 感謝している・助かっている・今後も継続して利用したい
- 助成費の拡大要望（枚数増やしてほしい・金額増額してほしい）
- 更なる対象者範囲拡大要望（身体3・4級、B1、精神2級など）
- ガソリン代の補助がほしい
- タクシー運転手の態度について
- 上記にあてはまらないその他

### 第3章 市民説明会の結果

#### 1. 実施概要

##### (1) 開催日時及び会場

	開催日	時間	会場
第1回	7月12日(木)	11時～13時	横浜ラポール・ラポールシアター
第2回	7月17日(火)	18時30分～20時30分	福祉保健研修センターウイリング横浜12F研修室
第3回	7月18日(水)	11時～13時	かなつくホール(神奈川区民文化センター)ホール
第4回	7月22日(日)	11時～13時	横浜市健康福祉総合センター4Fホール
第5回	7月24日(火)	11時～13時	サンハート(旭区民文化センター)ホール

##### (2) 参加者等

	開催日	会場	参加者	内車イス利用者	内点字希望者	内発言者
第1回	7月12日(木)	横浜ラポール	145名	9名	3名	13名
第2回	7月17日(火)	ウイリング横浜	57名	3名	2名	12名
第3回	7月18日(水)	かなつくホール	124名	2名	7名	10名
第4回	7月22日(日)	健康福祉センター	103名	4名	14名	11名
第5回	7月24日(火)	サンハート	73名	1名	1名	8名
合計			502名	19名	27名	54名

##### (3) 実施内容

説明書(アンケートはがきとじ込み)の配布

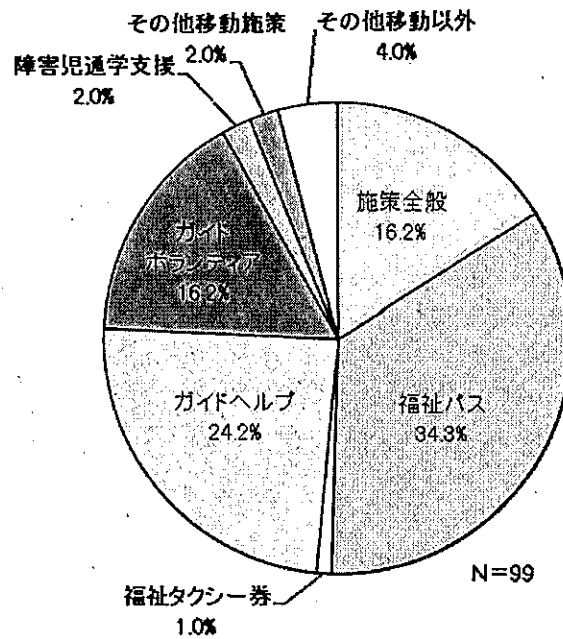
「障害者の外出支援制度の見直し案」に関する説明(約60分)

来場者との意見交換(約40分)

## 2. 発言内容

### (1) 発言内容分類

市民説明会の意見交換において発言した発言者54名の発言内容を分類し、項目ごとに集計した。  
 なお、1名の発言者が複数の発言をしている場合がある。



項目	発言数	賛成	反対	質問	その他
1 施策全般	16	1	2	6	7
2 福祉バス	34	4	17	9	4
3 福祉タクシー券	1	0	0	0	1
4 ガイドヘルプ	24	0	11	6	7
5 ガイドボランティア	16	1	12	3	0
6 障害児通学支援	2	0	0	1	1
7 その他移動施策	2	0	1	1	0
8 その他移動以外	4	0	0	3	1
合計	99	6	43	29	21

(2) 発言内容

項目別の発言内容を以下に示す。

① 今回の施策見直し全般についての発言（発言総数 16 件）

項目	内容
1 賛成意見	抜本的な見直しであり、見直し案に賛成。
2 反対意見	制限される制度に変わる。見直しには反対。
3	市の財政が厳しいことを、障害者に転嫁すべきでない。国に支援を求めるべきだ。
4 質問	意見募集の資料で知的障害者が理解できているのか。
5	この見直し案作成にあたって、当事者・関係者はどの程度検討に参加したのか。
6	この見直しによって、市の予算はどのように変わるのか。今後も制度を継続的に維持できるのか。
7	この見直し案は市長も知っているのか。
8	この説明会は、すでに決定していることを意見募集としようとしてやっているのではないのか。
9	この場にいる市職員は、自身がボランティアをする気はあるのか。
10 その他	この見直し案を 24 年 4 月から実施というのは拙速ではないか。
11	在宅障害者手当が廃止されて、あんしん施策に転換したのに、この見直し案に違和感がある。
12	見直しの必要性についてもう少し分かりやすく説明してほしい。
13	重度の障害のためほとんど制度を利用できない人がいることも知ってほしい。
14	回答用のはがきでは意見を書ききれない。
15	設問がいくつかの項目をまとめているため答えられない。
16	今回の意見募集設問の「どう思うか」のはなんなのか。このパンフレットの内容では知的障害者は理解できないと思う。

② 福祉パスについての発言（発言総数 34 件）

項目	内容
17 賛成意見	制度存続のため負担金 3,200 円をとることはやむを得ない。
18	福祉パス 3,200 円はかまわないと思う。どこが障害なのか不可解な人（サラリーマンらしき人等）が福祉パスを使って無料で乗車しているのを今までも見て、おかしいのではないかと思っていた。そうした人が減り、必要な人が使えるようになるのはよいと思う。
19	B 2 拡大はありがたい。
20	養護学校高等部の時に、子供が B 2 から B 1 に。福祉パスの B 2 拡大は、10 年以上要望してきたからうれしく思う。3,200 円は、敬老パスの生保の方も負担している。会場の皆さんにも考えてもらいたい。
21 反対意見	作業所の工賃が月 3,000 円以下の人も。その分を福祉パスに回せということか。
22	工賃が低く、障害年金も下がる中で生活が苦しく、年額 3,200 円は厳しい。
23	3,200 円の負担は、作業所の工賃も少なく厳しい。
24	障害年金で生活しており、3,200 円といえども厳しい。市の経営努力が足りない。
25	負担金はやむを得ないが、3,200 円は高い。所得に応じて安くしてほしい。
26	B 2 拡大はバラマキにつながるのではないか。
27	制度の目的が違うのに、負担金の根拠が敬老パスの金額というのはおかしい。



	項目	内容
28	反対意見	有料化は撤回してほしい。
29		3,200円の負担について、月3回以上の乗車で元が取れるが、最重度の障害者の場合、必ず介助者が付き添うことになる。乗れば乗るほど介助者の負担が増えるので、介助者がつく人とつかない人で不公平が生じている。
30		支援センター間の交流などの際にも福祉パスを利用して外出している。有料化でそうした活動を阻害するのか。
31		福祉パス利用者負担金について、消費税増税の話もあがっていることもあり、止めてほしい。
32		在宅障害者手当が廃止され、今回は福祉パス利用者負担金。外堀を埋められてきているように思う。
33		3,200円は作業所の工賃から考えると大変。
34		福祉パスを利用するとき、ヘルパーが同乗する際の交通費を負担しているが、そのことは配慮しているのか。
35		B2拡大はありがたいが、負担が3,200円というのはどうかと思う。
36		福祉パスの実際の使い方が分からなければ3,200円を負担する根拠とならない。
37		一律では、すぐに限界がくるはず。利用頻度に応じて4・5段階ぐらいに分けて利用者負担金とすべき。
38	質問	福祉パスとタクシー券の併用はどうか。
39		福祉パス5万円/枚について、使っていない人も含め支払っているのか。
40		福祉パスはどうして1人5万円もかかるのか。敬老パスに比べて高い。
41		利用者アンケート調査結果の処理の仕方と根拠が良く分からない。
42		5万円の根拠を区役所に尋ねたら人件費印刷費等事務費で1万円。業者には4万円支払う契約を結んでいると説明を受けたがおかしいのでは。
43		意向確認の結果、どれくらい辞退したのか
44		福祉パス1枚あたり5万円の内訳はどうなっているのか。
45		福祉パスが有料化された場合の支払い方法は。
46	福祉パスを利用できる交通機関を広げないのか。	
47	その他	内容は分かるがもう少し経費節減の工夫ができるのでは。
48		1回乗るごとにお金を取るなど、利用回数に応じて差をつけるべき。市の人件費も見直すべき。
49		ICチップ化について現在の見積を取り再検討すべき。
50		福祉パスを利用しているが、荒天時等、タクシー(券)を利用したい。

③ 福祉タクシー券についての発言（発言総数1件）

	項目	内容
51	その他	タクシー券の制度変更について障害特性に配慮してほしい。見直しになぜ2年もかかるのか。

④ ガイドヘルプについての発言（発言総数 24 件）

	項目	内容
52	反対意見	ヘルパーを 30 時間以上利用したくても、ヘルパーがいない場合もある
53		基準時間は、利用したくても利用できなかった人も踏まえ設定すべき。
54		基準時間は、現状通り 48 時間としてほしい。
55		基準時間 30 時間では外出が制限され、身体的にも精神的にも苦痛となる人がいる。
56		ガイドヘルプの利用時間が少ないのはヘルパーが少なく利用できない人が多いから。実態への認識が乏しいのではないか。
57		基準時間 30 時間では、撤退する事業者が増え、外出難民が増えるのではないか。
58		基準時間を 30 時間に変更する意味がわからない。サービスが縮まるようにとられる。
59		30 時間では足りない。他都市では時間制限を設けていないところもある。
60		30 時間に減らされては困る。病院や余暇などもっと行きたいという声がたくさんある。
61		ヘルパーをなかなか探せない現状なのに、基準時間を 30 時間にするのはおかしいと思う。
62		30 時間では足りない。
63		質問
64	同行援護との関連はどうか。	
65	ガイドヘルプ 30 時間と同行援護との関係は。	
66	通学・通所は 48 時間まで認めてそれ以外は 30 時間しか認めないのか。	
67	自立支援加算を身体障害者手帳でも認めてほしい。	
68	買物や余暇で月 40 時間を超えている。カットされてしまうのか。	
69	その他	ガイドヘルプの「社会生活上必要不可欠な外出」とは、何を基準に判断するのか。
70		余暇では 30 時間までとのこと、障害者はカラオケなど文化的な娯楽も望むことができないのか。
71		ガイドヘルプを通勤でも使えるようにしてほしい。
72		資格要件緩和にあたっては恐怖を感じる。教育に力を入れるべき。
73		区によって対応がまちまち。
74		ガイドヘルプの上限時間が 48 時間ということに納得できない。
75		健康維持・予防的にプールやウォーキングなどに出かけることも、通院扱いで認めてほしい。

⑤ ガイドボランティアについての発言（発言総数 16 件）

	項目	内容	
76	賛成意見	今回の改正は画期的であり、早く実施してほしい。	
77	反対意見	奨励金を 500 円にすれば、ボランティアをする人がいなくなる。	
78		奨励金が 500 円に減額されると、現状でも不足しているボランティアがますます減る。	
79		ガイドボランティアで福祉有償運送を利用しているが、併用不可で負担増になり困る。	
80		奨励金 500 円では、交通費にも足りず、ボランティアを続けるのがつらくなる。	
81		奨励金 500 円では、ボランティアが減る。近所でやってもらえるボランティアがいない。	
82		奨励金 500 円では、ボランティアが減ってしまう。	
83		ガイドボランティアに交通費実費に加え奨励金を出すべきだ。	
84		奨励金を減らしたらボランティアは増えないと思う。	
85		奨励金 500 円では交通費にも足りない人がある。見直しが必要。	
86		奨励金一律 500 円について、障害者の立場から考えてほしい。	
87		奨励金 500 円では交通費をまかないきれないボランティアが少なくないと思う。	
88		奨励金一律 500 円について、ボランティアをしてくれている人がやめると言っている。	
89		質問	ガイドボランティアが車を持ち込んで送迎することはできないか。
90			ボランティアの発掘策を具体的に教えてほしい。
91	隣近所の人でガイドボランティアをお願いできる人は少ない。「社会生活上必要不可欠な外出」以外は外出するなどということか。広報よこはまに掲載のイベントや活動については、障害者も一般区民と同様に参加できるようにするべき。		

⑥ 障害児通学支援についての発言（発言総数 2 件）

	項目	内容
92	質問	具体的にどのようなことをしているのか。
93	その他	奨励金 500 円ではボランティアは集まらない。自治会に助成金を出すなどしてボランティアを確保するなどの施策が必要だと思う。

⑦ その他移動施策についての発言（発言総数 2 件）

	項目	内容
94	反対意見	UDタクシーは企業努力でまかなうべき。
95	質問	移動情報センターはどのようなことを行うのか。

⑧ その他移動施策以外についての発言（発言総数 4 件）

	項目	内容
96	質問	あんしん施策との関係を聞きたい。
97		在宅障害者手当が無くなって、そのお金はどのように使われているのか。
98		みどり税、消費税増税などの増収分を福祉の拡充にあてる考えはないのか。
99	その他	身体障害者手帳 5, 6 級のサービスが少なすぎる。

## 第4章 団体等への説明結果

### 1. 実施概要

#### (1) 目的

障害者の移動支援施策再構築について、障害当事者団体等からの説明依頼に基づき説明を実施し、様々な機会を捉えて見直し案の考え方を理解していただくよう実施した。

#### (2) 実施時期、回数、延べ参加者数

4月19日(木)から8月6日(月)まで、32回実施。延べ850名が参加。

	説明先	回数	参加人数
1	当事者	11	375
2	家族	9	186
3	支援者・支援機関	11	274
4	その他	1	15
	合計	32	850

#### (3) 意見の傾向

それぞれの団体等の関心のある施策について意見が集中したが、傾向としては、福祉パス有料化、ガイドボランティア奨励金引き下げ、ガイドヘルプ基準時間見直しに関する意見が目立った。

#### (4) その他、実施効果

この説明機会を通じて、見直しの考え方を丁寧に説明することができた。また、6月11日(月)以降、意見募集リーフレットを配布し説明を行ったので、参加された方から市民意見募集回答ハガキなどで多くの意見をいただくことができたと思われる。

## 2. 実施結果、意見概要

連番	日付	曜日	分類	参加者数	意見等概要
1	4月19日	木	当事者	2人	・特になし
2	4月23日	月	家族	2人	【福祉バス】 ・B2対象拡大について進めてほしい 【ガイドヘルプ】 ・外出先での支援について教えてほしい
3	4月24日	火	家族	3人	【福祉バス】 ・所得保障がないなかで福祉バス3,200円の負担は重い
4	4月24日	火	家族	18人	【福祉バス】 ・自立支援法では非課税は負担無なのに、福祉バスで一律負担を求めるのはおかしい ・まず、事業者と折衝して負担軽減を図るべき ・3,200円を分割払いにできないか
5	5月9日	水	当事者	10人	【福祉バス】 ・自動更新はやめるべき 【福祉タクシー券】 ・月利用枚数制限はやめてほしい ・65歳を過ぎて手帳を取得した人にもタクシー券を交付してほしい ・ガソリン券を検討してほしい 【ガイドヘルプ】 ・基準時間を48時間から減らすことについて、他の制度と矛盾しないようにしてほしい
6	5月15日	火	支援者・ 支援機関	15人	・特になし
7	5月19日	土	家族	20人	【福祉バス】 ・有料化について、応能負担・応益負担について議論はされたのか 【ガイドヘルプ】 ・通学・通所への範囲拡大はお願いしたい 【人的支援】 ・担い手不足について、制度が拡充されても、人がいなくて制度を使えないということになるのではないか
8	6月3日	日	その他	15人	【全体】 ・今回の案は再構築とまでは言えない ・知的障害者にも分かるように説明するべきだ ・市民意見募集の設問の意味が分からない 【ガイドヘルプ】 ・利用範囲を拡大すると言っても事業所が対応できるのか ・基準時間は無くしてほしい ・自立を促す仕組みは当事者も入れて検討してほしい 【ガイドボランティア】 ・奨励金引き下げは矛盾している 【その他】 ・移動情報センターが構想と違う形で不満 ・移動情報センターの課題や成果が見えない ・カーシェアリングが動いていない
9	6月6日	水	当事者	5人	【福祉バス】 ・3,200円を取る理由は何か ・収入は考えないのか(応能負担とするべきでは) 【ガイドヘルプ】 ・基準時間をなぜ48時間から30時間にするのか 【ガイドボランティア】 ・奨励金を500円にしてやってくれる人がいるのか

10	6月7日	木	家族	22人	<p>【福祉タクシー券】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もらっているが使えない</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学・通所にも使えるようになるのは助かる</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドボランティアと福祉有償運送を切り分けるとのことだが、利用者の負担が増えるということか</li> </ul>
11	6月8日	金	家族	37人	<p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両移送型とは何か</li> <li>・自立支援加算とはどのようなことか</li> <li>・自立支援加算について、どんな方を想定し、実際の支援計画、アセスメントなど、どのようなイメージを持っているのか</li> </ul>
12	6月8日	金	支援者・支援機関	100人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1万人の方に送るリーフレットは知的障害者にも分かるようにするべきだ</li> </ul> <p>【福祉パス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事に「乗り放題バス」と出ていた。誘導的な表現ではないか。</li> </ul>
13	6月12日	火	支援者・支援機関	10人	<p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者への報酬単価は変わるのか</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学・通所に使えるようにするとのことだが、制度設計を慎重にしないと事業費が爆発的に伸びるのではないか</li> </ul>
14	6月13日	水	家族	12人	<p>【福祉パス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の子どもは、当事者同士で結婚している。住んでいるところも、福祉パスを使ってバスで移動できるところに住んでいる。有料になるのは困る。</li> <li>・精神病を患い引きこもっている人を外に引っ張り出すためにも、パスは必要。年額3,200円はささやかな金額ではあるけれども負担になり、引きこもる人を増やすことになる。</li> <li>・親がいるときは、親が払ってやることできるが、親が亡くなり一人になったとき、基礎年金の収入しかなく、払うことができない。3,200円の負担はやめてほしい。</li> <li>・引きこもりをなくし外にでることは、自殺者を減らすことにもつながる。</li> <li>・作業所の支援員をしている。利用者を集め話をした。事業継続のためには仕方ないとの意見もあったが、多くは今のまま継続してほしいという意見だった。</li> <li>・横浜は通所交通費も補助してもらい、通所しやすい環境ではある。しかし、福祉パスを使うために遠回りのルートを使ったりしている。また、交通費は後払いなので、6ヶ月を事前に負担せねばならず、厳しい。定期的に通うことの必要な通所者にこれ以上の負担は、やめてほしい。</li> <li>・先日区で当事者の催し物があった。司会をした当事者は私鉄で数駅ですむところを、わざわざバスを乗り継いできていた。それほど数百円の支出にも日ごろ節約して生活している。</li> <li>・バスや地下鉄を乗り継いで、休日に外出することを楽しみにしている人がたくさんいる。負担がなくてどこかにでかけられることは楽しみにしている。</li> <li>・福祉パスの事業が精神障害者にも適用になったとき、最初、パス券見せて乗ることが気が弱くできない人がいた。心やさしい人が多い。今は、JR等は手帳見せても割引にならない。是非、割引になるようにしてほしい。</li> <li>・自分の子どもは、精神の通院のほかに糖尿病や白内障を患っており、そちらは3割負担。今は親が出せてやれるが、将来は心配。是非、医療費の負担が少なくなるようにしてほしい。</li> <li>・先日、相談に来られた人で、地域で孤立しているようだったので、家族会にお誘いした。自分の区は、会費は年3,000円と安いと、その方は会費のことをお話しすると悩んでおられた。少ない金額だが、人や家庭によっては、そういう人もいる。</li> <li>・交通事業者への負担金は高すぎるのではないかと。会社を儲けさせているのではないかと。</li> <li>・適正交付をしたいという考え方はよくわかったが、何とか負担なく適正交付ができるようなことを考えてほしい。団体としては負担金に反対する。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3障害一元化といわれているが、まだまだ精神障害者に対するサービスは少ない。また、年金は物価低下を受け、下がってきている。横浜は他都市に比べ作業所の補助金など恵まれていると思うが、引きこもりの患者へのアウトリーチにも取り組んでほしい。</li> </ul>

15	6月14日	木	当事者	8人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見直して予算はどう変わるのか</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学・通所で使えるようになるのか</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運用基準は公開されるのか</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同行援護の身体介護ともなうともなわないの認定が区によってばらつきがある</li> </ul>
16	6月17日	日	当事者	25人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見直し案について障害当事者の意見を事前に聞いて作成したのか</li> <li>・アンケートの設問は誤解を呼ぶのではないか</li> </ul> <p>【福祉バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉バス3,200円はショッキング。</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドボランティアと福祉有償運送を明確に区別するとはどういうことか。</li> <li>・ガイドボランティアの利用回数は変えるのか。</li> </ul>
17	6月19日	火	支援者・支援機関	20人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者への説明の機会は設けられるのか</li> <li>・知的障害者にも分かるような資料を作るべきだ。横浜市の姿勢として疑問</li> <li>・障害者本人への説明の機会を設定してほしい</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準時間が余暇では30時間までとなると、本人の生活が狭められてしまう。そのことをどのように考えているのか</li> <li>・通勤にも使えるようにならないのか</li> <li>・通勤・通学について、事業者への報酬単価設定を考えてもらいたい</li> <li>・社会生活上必要不可欠な外出について、健常者と当事者では意味が違う</li> <li>・土日にガイドヘルプを頼もうとしても使えず、本人の希望がかなえられないことも多い</li> <li>・ガイドヘルプがいなければ家と作業所の往復だけになってしまう</li> <li>・余暇活動を遊びという感覚で捉えるのがおかしい</li> <li>・基準時間を引き下げて横浜市にとって効果があるのか。あえて必要な人の時間を減らすとはどういうことか</li> </ul>
18	7月2日	月	支援者・支援機関	8人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年度からすべて実施するのは難しいのではないか</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパーを無理に増やすことで質の低下がおこるのではないか</li> <li>・最初に支援者側の体制整備が大切</li> <li>・相談支援事業とリンクさせるべき</li> <li>・供給が追い付くのか</li> <li>・送迎加算を手厚くした方が良いのではないか</li> <li>・基準時間については、激変緩和措置があっても良いのではないか</li> </ul>
19	7月4日	水	家族	40人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度が変わる時は混乱する。早めに周知してほしい</li> </ul> <p>【福祉バス・福祉タクシー券】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両方もらえないか</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外出で事故があった時の保険はどうなっているのか</li> <li>・奨励金見直しはボランティアが減ってしまうのではないか</li> </ul>
20	7月10日	火	家族	32人	<p>【福祉バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一律年3,200円だと親亡き後、本人の年金だけでは苦しい</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準時間切り下げについて教えて欲しい</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉有償運送との併用ができなくなると負担が増えてしまい困る</li> <li>・奨励金引き下げにあたり、ボランティア育成策はどのように考えているのか</li> </ul> <p>【通学支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学支援員は続けて欲しい</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動情報センターの役割は何か</li> <li>・移動情報センターの今後の進め方はどうなるのか</li> </ul>

21	7月11日	水	支援者・支援機関	20人	<p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の提案の基準時間は上限時間なのか。</li> </ul>
22	7月15日	日	当事者	21人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅障害者手当転換策(あんしん施策)を見えるようにしてほしい</li> </ul> <p>【福祉パス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を取るのはやめてほしい。交通事業者と交渉してほしい</li> <li>・定期的に通院しなければいけない障害者は特別としてほしい</li> <li>・敬老パスは所得に応じて負担額が違うが、福祉パスもそうできないのか</li> </ul>
23	7月19日	木	支援者・支援機関	14人	<p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均利用時間13.4時間とあるが、平均はあくまでも平均であって意味がない</li> <li>・資格緩和について、スキルアップ研修と矛盾するのではないのか</li> <li>・人材不足でガイドヘルプの範囲拡大してもサービスが追いつかないのではないのか</li> <li>・同性介助が必要と思うが報酬の問題がある</li> <li>・ヘルパーさんは時間が短いからやらないという人も多い</li> <li>・資格緩和の内容を知りたい</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドボランティアのマッチングが難しい</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動情報センターをなぜもっと広げないのか</li> </ul>
24	7月19日	木	支援者・支援機関	20人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前もって当事者にアンケートをすることを言ってほしかった</li> </ul> <p>【福祉パス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B2まで拡大することはありがたい</li> <li>・障害者の所得保障がないのに一律負担はおかしい。所得がない人のことを考えて欲しい</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なサービスを必要なだけ使えるようにすべき</li> </ul>
25	7月20日	金	当事者	20人	<p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準時間30時間はなぜなのか</li> <li>・利用できる重度障害者の範囲はどうなっているのか</li> </ul> <p>【通学支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立校は通学範囲が広く通学支援員で助かっている。</li> </ul>
26	7月24日	火	支援者・支援機関	20人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合福祉法との関連はあるのか</li> <li>・説明会の会場ではどのような意見が出たのか</li> <li>・障害者の生活をどのように捉えているのかが分からない</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援加算とは何か</li> <li>・報酬の中身は決まっているのか</li> <li>・報酬単価が気になる</li> <li>・通学のニーズは高いが、担い手を考えると限界がある</li> <li>・報酬単価を下げればできない事業所が増える</li> </ul>
27	7月27日	金	当事者	11人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅障害者手当がなくなって、障害者に還元されていないと感じている</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準時間では足りない。プールや入浴の際のプール内の介助等をガイドヘルプで認めてほしい</li> <li>・月30時間では足りない</li> <li>・本人が使いたい時間を認めてほしい。せめて48時間はほしい</li> <li>・時間は誰が決めるのか。外出を控えることになるのではないのか</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドボランティアが少なくなっている</li> <li>・ボランティアをヘルパーにすることは考えていないのか</li> <li>・重度訪問介護事業所も少ない。ガイドボランティアよりも同行援護や重度訪問介護事業所を増やすことを考えたほうがよい</li> </ul>



28	7月27日	金	当事者	45人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートは賛成・反対を問うべき</li> </ul> <p>【福祉バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3,200円について、将来増額されることを懸念している</li> <li>・ICカード化すべき</li> </ul> <p>【福祉タクシー券】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月利用枚数制限撤廃を評価する</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金が500円ではやってくれる人がいなくなる</li> <li>・なぜ今ガイドボランティアを見直すのか</li> <li>・この見直し内容では、ガイドボランティアを続けていこうとは思えない。ガイドボランティアが増えると考えているのか</li> <li>・奨励金500円ではサービス拡充・安定性のバランスがくずれる</li> <li>・奨励金の引き下げは段階的にしてほしい</li> <li>・500円では生活保障が阻害される</li> </ul>
29	7月28日	土	当事者	28人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見募集後の案の見直しスケジュールはどうなるのか。意見募集の結果や案を見直ししたもの説明会も実施してほしい</li> <li>・この見直しは、あんしん施策の一貫なのか。負担の増や基準時間の減は困るという意見が、入居者からあった。(施設支援員)</li> </ul> <p>【福祉バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改正はいつからか？ 交付方法はどうか</li> <li>・アンケート結果は公表されているのか。意向調査でどれくらい辞退があったのか</li> <li>・負担金を3,200円に設定した理由は何か</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパーの時間が48時間から30時間に減ると、どれくらいの時間が利用できるのか</li> <li>・ヘルパーを映画等に行くときに、昼の時間帯を利用している。夜の時間も利用できるのか</li> <li>・なぜ、ヘルパーの基準時間を減らすのか。高齢になってくると、ヘルパーの利用がより必要となってくる</li> <li>・重度訪問介護の移動も同じ基準時間になるのか</li> <li>・社会生活上必要不可欠な外出とはどんなものか。48時間を超える場合は、どのような対応になるのか？ 余暇のみで30時間を越えたとどうなるのか</li> <li>・ヘルパーの基準時間は必要な時間を決定していくべきで、基準時間を設定すべきではない。基準を超えるものはガイドボランティアが補充するとしてボランティアを充実させるとは言っているが、一方で奨励金を下げているのは、矛盾するのではないのか</li> <li>・ガイドヘルパーとガイドボランティアを併用する場合の手続きはどうか</li> <li>・グループホーム入居者で高齢になって日中活動に参加できない人がでており、移動の余暇を使っている。余暇だけで基準が30時間になると厳しい</li> <li>・区のケースワーカーによって48時間を超える決定が違っている。基準を当事者にもわかるようにしてほしい</li> <li>・一人で外出できない知的障害者には、48時間をつけてほしい</li> <li>・ヘルパーの人材不足が言われており、受講料助成も行っているが、ヘルパーは増えているのか</li> <li>・ヘルパーの資格緩和は質の低下につながってこないか心配。ヘルパー資格を持っている人が、改めて研修を受けなければ資格がとれない仕組が疑問。市独自でホームヘルパー2級研修に、移動支援のカリキュラムを加えるなどできないか</li> <li>・入居者の中には高齢になって平日も日中通所できていない人が大勢いる。また、通院で基準時間を超えてしまう人もいる。障害者の場合、余暇は遊びではない。地域で生活していくうえで外に出て行くことが非常に重要である。グループホームの高齢化も課題となっているが、ガイドヘルプの見直しにあたっては、高齢化の問題も頭において実施してほしい</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害者がお願いできるボランティアが少ない。知的障害者もボランティアを使えるようにしてほしい</li> <li>・ガイドボランティアを近隣で見つけることは非常に難しい。交通費の実費が500円を超える人も多い</li> <li>・ガイドボランティアを利用しやすくするために、ガイドヘルプ事業所を取り扱い団体とすべきでないか</li> </ul>

30	7月30日	月	支援者・支援機関	17人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしん施策は在宅障害者手当の転換策、どうなったのか</li> <li>・アンケートの表現に「税金を使って」とあるが、これは重い。表現を考えてほしい</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準時間について、48時間のままサービス利用計画の中できちんと決めれば良いのではないか</li> </ul>
31	8月3日	金	支援者・支援機関	30人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者の声を聞いて制度設計してほしい</li> </ul> <p>【福祉パス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有料化については低所得者への配慮はあるのか</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活上必要な外出とはなにか</li> <li>・利用したい時間は月により違う。年度内で融通できないか</li> <li>・通所で使えれば作業所は送迎しなくて良くなるのか</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団見守り型とはなにか</li> </ul>
32	8月6日	月	当事者	200人	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの設問が答えにくい</li> <li>・決定した後、責任を持って説明してほしい</li> </ul> <p>【福祉パス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年金から3,200円を出すのは大変。やめてもらいたい</li> <li>・利用料金は所得に応じて差をつけるべき</li> <li>・在宅障害者手当をなくしておいて福祉パスの有料化はおかしい</li> <li>・作業所の工賃を知っているのか</li> <li>・ICカード化して、乗車回数を把握すべき</li> <li>・福祉パスとタクシー券はなぜ両方もらえないのか</li> </ul> <p>【ガイドヘルプ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準時間見直しはおかしい</li> <li>・基準時間引き下げは引きこもりを増やす</li> <li>・利用の制限がある。通学にも使えるようにしてほしい</li> <li>・基準時間の制限をかけるのはおかしい</li> </ul> <p>【ガイドボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金500円ではやってくれる人がいなくなる</li> <li>・ボランティアにお金を出すのは他の先進国ではない</li> </ul> <p>【通学支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児通学支援事業はガイドボランティアに移行できるのか</li> </ul>